わ
031
35
1

国立国会図書館　　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

中村惕齋先生纂輯

下河邊拾水子畫圖

頭書増補訓蒙圖彙大成

全部十冊

031-35

A31
11

249
371

この書は天文地理人倫日用の
ものの名げを絵にかきて
やさしき仮名文字をもて
こまやかに文字と号ぬ

皇都書肆

九皐堂 梓行

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

已生弱不知衣服攝事（ヲ）似（ル）之則（チ）如（シ）無（シ）
家嫁當漢籍曰鵲當時（ニ）善（ク）昏（ス）儀（ヲ）
婚嫁之設禮宜（シ）有（ル）節（ヲ）
生根固（ク）家材成（ス）自（ラ）古（ヘ）
嘗（テ）不（ン）學（ハ）而（テ）可（キ）津（ニ）
未（ダ）生（レ）而（ニ）豫（メ）研（ク）之（ヲ）
若（シ）事（ニ）思（ヒ）而（ニ）善（ク）謀（ル）
如（シ）不（ン）弘（ク）學（ヲ）得（ン）於（テ）
如（シ）蠶（ノ）食（ム）桑（ヲ）之（ノ）增（シ）
似（ル）宋（ノ）儒（ノ）
一（ツ）解（ク）宋（ノ）人（ノ）拘（ル）
如（シ）蠶（ノ）之（ノ）衆（キ）而（ニ）
如（シ）不（ン）知（ラ）君（ノ）
如（シ）蠶（ノ）之（ノ）衆（キ）祇（ク）
如（シ）蠶（ノ）之（ノ）衆（キ）而（ニ）
如（シ）蠶（ノ）之（ノ）衆（キ）而（ニ）

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

圖畜牛馬設食宜適者
受穢之污引傷煙亂者
強猥厭飽與適附集之
害之而丹石之毒如
牧畜牛馬時牛時也當
越前
丸光撰

訓蒙圖彙敘
天受之須要以
多多益善然
九典二籍兼
天下事豈

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

頭書増補訓蒙図彙 巻之二十一 禽部 三

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

係ル係ル係ル

頭書増補訓蒙圖彙凡例

一 凡此編事物之名稱雖皆以漢字題之而實以和名為主蓋本邦中華風土之殊如乾象坤儀之名狀飛潛動植之形色猶不必同矣況人俗工技之所習堂宇器服之所制豈得牽強而合之故隨國俗稱呼各取漢字之事義形狀近似者以名之覩者須先知之其昧得以名之續之然昧暇及此

一 凡一事而數名者以正名為標而注異名于其下或為拘于屬對或為避于重字題以異名則注以

頭書地神訓蒙圖彙序

三才千字文序

夫人之智あるハ自然や又學問をまつて知るに賢愚のわかつこれ有ごとを矣やらざるハ其智と云ふ識とふ事を學ざるハ學ざる故也愚なる人と雖も學ぶ事を務ば賢に近し況や聰明先生訓誨を蒙ると芸ずる事を學ぶ仮名を識ざる婦女童子

正名曰某也曰某之一名曰某謂之某若一類而殊品一體而分支者則注中隔圈而附之標題為綱而餘皆為目也其所圖倶主正者若併畫附者則就圖中識別之

一諸品名稱大抵漢字以方俗從来熟知慣用者為標異稱以近俗宜今者屬之其和名亦有俗呼則必採之不避鄙俚猥雜皆欲稱童蒙士易曉

一諸品形狀並象茲邦之風俗土産矣凡所目撃者便筆而摹之或據畫家之所寫或審問識者然後倫工描成之其間有本土所無及有無未審則並以異邦風物補之然豊偉之體非小圖所能容纖密之文非曲鑿所能鐫況只墨印而無施彩乎所得止依稀疎景乎

一引證之圖書漢字以二才圖會農政全書及諸家本草之圖說為主凡訓詁注疏稗史雜編中有明徴則採據以裨益矣國書以源氏和名集為本以林氏多識編繼之凡類編雜抄如字鏡塩嚢下學節用之等並參之補之若質諸舉人歸化者問諸交游博物者咨諸技術親事者詢諸樵魚處野者合巧而獨斷之則必稱今按以別之其未審者稱

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

或曰以備參閲矣敢正其名也哉即以疑傳之耳

辨明揀繹之在人也

一今以目次之數別為大字冊子呼曰三才千字文無他偆于戲筆也

一原本圖彙所遺漏隨得補之然事物之無限可玩者亦多端近尋彼問此撰益于愛玩者數百為續編其行將嗣刻云

頭書增補訓蒙圖彙目錄

巻之一　天文之部

兩儀 一
國常尊 六
北辰 十一
斗 北斗 十六
參 廿一
月蝕 廿三
太白 廿六
露 廿七

七政 二
秋津洲 七
列宿 十二
晦 十七
昴 廿二
天漢 廿四
虛空 廿七
霧 廿七

太極 三
日本國 八
日 十三
朔 十八
彗 廿三
牽牛 廿八
雲 廿三
雨 廿八

陰陽 四
大唐 九
月 十四
弦 十九
孛 廿四
織女 廿四
煙 廿四
氷 廿九

倭國 五
盤古氏 十
星 十五
望 十五
日蝕 廿五
長庚 廿五
風 廿五
雪 廿十

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

虹 にじ 四十一
氷柱 つらら 四十六

暈 かさ 四十二

雷 いかづち 四十三

電 いなづま 四十四

雹 あられ 四十五

巻之二 地理の部

山 やま 四十七
巖 いわほ 五十二
崖 がけ 五十七
村 むら 六十二
海 うみ 六十七
畔 くろ 七十二
獨聚 ひとつむら 七十七

巔 いただき 四十八
谷 たに 五十三
麓 ふもと 五十八
林 はやし 六十三
嶌 しま 六十八
畑 たはた 七十三
溝 みぞ 七十八

峯 みね 四十九
瀑 たき 五十四
棧 かけはし 五十九
川 かわ 六十四
波 なみ 六十九
塚 つか 七十四
塲 にわ 七十九

坂 さか 五十
丘 おか 五十五
洞 ほら 六十
洲 す 六十五
渦 うづ 七十
井 いど 七十五
澤 さわ 八十

嶽 だけ 五十一
盤 いそ 五十六
岬 みさき 六十一
岸 きし 六十六
濱 はま 七十一
韓 いわお 七十六
池 いけ 八十一

礫 こいし 八十二
道 みち 八十七
閭 さと 九十二
橋 はし 九十七
水柵 しがみ 百二
峠 とうげ 百七

石 いし 八十三
野 の 八十八
衢 ちまた 九十三
市 いち 九十八
閘 ひろくち 百三
沼 ぬま 百八

沙 すな 八十四
畷 なわて 八十九
城 しろ 九十四
津 つ 九十九
堰 せき 百四
藪 やぶ 百九

泉 いづみ 八十五
園 その 九十
墅 ざい 九十五
堤 つつみ 百
森 もり 百五
牧 まき 百十

塘 つつみ 八十六
圃 はたけ 九十一
封疆 とて 九十六
浮橋 うきはし 百一
關 せき 百六
墓 はか 百十一

殿 との 百十二
鄙 しくみ 百十七
廊 ろうか 百二

棟 むね 百十三
階 きざはし 百十八
庭 にわ 百二三

楹 えん 百十四
欄杆 らんかん 百十九
牆 かき 百二四

榑風 たなかぜ 百十六
扉 とびら 百二一
磚 しきがわら 百二六

居室之部 二

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

砌 みぎり 四十七
雪打 四十二
寺 てら 四十四
厠 かわや 四十二
廡 ひさし 四十七
蠅 蚋 四十二
壁 かべ 四十四
閨 ねや 四十二
護摩堂 四十二
輪藏 四十七

華表 四十八
宅 いえ 四十三
塔 あらくま 四十八
坊 まち 四十三
齋 四十八
捷 くぐつのさま 四十三
廳 ちやうのところ 四十八
籬 まがき 四十三
臺 うてな 四十八
護扡 四十三

宮 みや 四十九
櫺 まど 四十四
亭 あづまや 四十九
店 いちぐら 四十四
窻 まど 四十九
庖 くりや 四十四
廐 うまや 四十九
浴室 ゆどの 四十四
櫓 やぐら 四十九
猿 さる 四十四

瑞籬 四十四
厨 くりや 四十五
廬 いおり 四十
楣子 四十五
戸 と 五十
臥房 ねや 四十五
牢獄 ひとや 四十二
柵 しがらみ 四十二
駅 うまや 四十一
蹴鞠坪 四十一
桁 けた 四十一

樓 たかどの 四十一
窖 あなぐら 四十二
屋 や 四十一
倉 くら 四十二
瓦 かわら 四十一
鋪首 四十二
欄干 四十一
鞦韆 四十一

巻之四 人物之部

藻井 四十七
抖 ふるひ 四十八
窯 かまど 四十九

公 きみ
童 わらはべ
工 たくみ
膳夫 かしわで
尼 あま
仙 やまびと
俳優 わざおぎ
矢人 やづくり

卿 かみ
翁 おきな
商 あきびと
画工 えかき
鍛 かぢや
佛 ほとけ
染匠 そめびと
函人 よろひ

士 さむらひ
婆 ばば
賈 あきびと
巫 みこ
冶 いかし
薩 さつ
蠶婦 こがひ
王人 たいこ

女 をんな
兵 つはもの
醫 くすし
祝 はふり
陶家 すゑものつくり
樂官 がくにん
機女 はたおり
硯工 すずりつくり

嬰 みどりこ
農 のうふ
卜 うらなひ
僧 そうず
鬼 おに
伶人 わざおぎ
弓人 ゆみや
櫛引 くしひき

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

銀匠 鳥喙子折
針磨 牙婆 蔦僧
坏者 相僕使 扇工
兎唇 駝背 蚤入
猟師 瞽者 乞兒
舟子 牧童 鏡造
渉人 駕輿丁 浪人
伯樂 車借 問丸
屠者 中國 朝鮮
天笠 琉球 安南

皮匠 傘工
筆工 石工
漆匠 侏儒
釣叟 撓夫
販婦 漁夫
娼婦 遊女
傀儡師 馬借
土嚢師 大黒木女原
粛慎 蒙古
東番 邏羅

占城 東夷
長臂 崑崙

南蠻
長人國

呂宋
小人國

長脚

頭 口
皃 歯
鬢 髪
骨格 腹
拳 指
肺 脾
腸 大腸

面 舌
筋
背
肋
腎
小腸

目 耳
鬢 髭
毛 顱
手 脚
乳 心
肝 膽
胃 膀胱

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

包絡　臟腑　胞胎

巻之六　衣服之部

冕　纓　冠　笏　袍　帶　奴袴　袈裟　深衣　帨

帽　帽子　冠　官品玉冠　笏　木笏　牙笏

裘　裳　袍　袿衫

裙　裙　褌　袴　半臂　靴　靴

玦抹　韘　袖　布衣　有垂　帶　袴　裙　半臂

衿　衽　被　睡襖　袖　袍　直掇　魚袋

革帶　鞢　布衣　袴　幅巾　絡子　袴

履　淺履　烏皮履　被　睡襖　襪　袴　襪　袴　帕　幅巾　縐布冠

毛裘　誕衣　裹脚　幄　帳

幔　幕　座具　緣道絹　夾衣

褥　降緒　雨衣　浴衣　敝膝

鞋　絲鞋　草鞋　履　木履

巻之七　宝貨之部

金　銀　銅

錢　珠　鉛

硫　發燭　硝　芒硝　牙硝　王　朱砂　銀朱

礪　玻瓈　磁　砒霜

珊瑚　琥珀　瑪瑙　琅玕　碑碟　砒　礬　硃　珠　紗

鐵　碑碟　瑠璃

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

慰斗目
綉珍
紅染
綿
水銀
水精
石膽
麒麟血

錦
緞
加賀絹
八丈嶋
高麗織
火精
浮石
幣

繡
絹
線
絨
皮
緑青
温石
木綿襷

穀
繻珍
條
緦
華
白粉
滑石
石灰

綾
繻子
絲
金薄
鐵線
雲母
鱉甲
海鹽

紙

筆

墨

硯

書本横巻冊子

巻之八 器用之部

畫
印色
團扇
如意
笛
鈴子
鼓 大鼓也
律
琵琶
抱 大鼓抱 羯鼓抱

袴
符
翳
几
尺八 竪笛
笙
琴
箪笥
撥 比巴撥 三絃撥

帙
簿
筭
案
横笛
鉦
簫
瑟
軫 琴軫 比巴軫
塤

牋
暦 こよみ
尺 摺尺
蠟燭
鐸
土拍子
柷
箏 さうのこと
柱
觳

印
扇
拂塵
鐘
風鈴
籥
磬 銅磬
阮 阮咸 月琴
敔
三絃

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

繫爪　腰鼓　六采　硯屏　壓尺　燭奴　燈檠　香爐　香餅　紙鳶

假面　風鐸　慕　水滴 水中丞　眼鏡　燈籠　挑燈 同 提燈　筋瓶　空鐘　竹馬

銅羅　雲版　杼　書鎮　爪杖　燈檠　方燈　佩香　毬杖　風車

銅鉢　噴吶　簞殿子　筆架　鞠　油瓶　烟火　線香　投壺　木偶

羯鼓　喇叭 銅角　象棋　界方　燭臺　燭奠　拍板　薫籠　爆竹　陀螺

巻之九　器用之部

幢　銅雀幢　鎧　鉞　幟　矢　弩　的　韜

幡　兵幡　冑　戈　劒　鏃　砲　垛　銜

旗　佛幡　刀 長刀 短刀　弓　鉾

纛　鉾　鉄　矟 鑓 鎗　刺　鞘　箙　鞘　柄　鐙　牒　韜

羽葆幢　楯　鞭　欄　弓　靫　鞭　鞭

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

長劒 鋼叉 鐵把
飄石 發貢 鹿砦
釣 枷 笞 杖
碇 車 藁
輪 輞 轂
轅 軻 柴
帆 檣 柁 槹
艫 艇 舵
蓬 野航 番舶
軌

鐵鞭 火箭
障泥 屜沓
棒 棍 吾杖
兜
輻
棧車 籃輿
舟
棹
車蓋
轄

犁 耙 鏡 鐮
擔 轅擔 匾擔 鍤
鋳 鏟 耬 把
竹把 木把 杷 鑊
蓑 笠 檛 鍬
簀 籠 確 鑽
銀剪 石鑿 機 鍛
篩 綜 杼 梭
絡捉 績桶 紡錘 撥枘

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

巻之十一　器用之部

綿弓　紡車　鞆　鞴　水筧　水平　案山子　鷹架

旋盤　趕綱　繙車　爐ユ臺　魚梁　繩車　罔

犂鑽　檣綱　弶　籠　扉斗　魚籠　障子

鉄挺　羅　雀竿　筒車　撒網　搭柱

木挺　罾　稍　石籠　塘綱　楨榦　土圭

篠　椅子

屏　牀

圍屏　杌

枕　墩

席　匝

繅車　鑷簿　準　鋸　鑿　鑢　鑰　裁刀　鉸具　砧

攉車　針　繩　槌　鑽　鑿　斧　楔　箍束　轆轤

攪車　斀　斫　木槌　錐　鎖　鞴　釘　篾箍　桔槹

紡車　規　鏘　椓鑿　揪　鋏　堝　索　鐵束　瓦竇

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

盥 たらひ
髪 かづら
鏡臺 鏡架 きやうだい
櫛 くしけづる
鼻 てうこう
匙 かひ
飯帋 そうる
木椀 もくわん
盒 ぢうばこ
桶 をけ

鏡 かがみ
櫛 くし
粉匣 おしろひばこ
盂 さうづ
鍋 なべ
飯匙 しやもじ
筋 ばうし
碟 さら
鉢 もち
槽 ふね

剪 摺剪 交剪 はさみ
梳 くしけづる
壺 つぼ
盞 ちよく
釜 かま
茶匙 さじ
火筋 ひばし
托 ちやだい
盆 ぼん
杓 ひしやく

鑷 けぬき
柿 さるかき
瓶 へい
匜 さうづき
甑 こしき
藥匙 やくじ
碗 盂
盤 臺盤 だいばん
甕 もたひ
筅 ちやせん

笄 こうがい
枇杷 びわ
樽 たる
爵 しやく
鼎爐 かなへ
香匙 こうじ
茶碗 ちやわん
盞盤 さうれんばん
缶 汲桶 つるべ
筅帚 ちやせんばうき

箕 みのこ
爐 ひたき
杵 きね
解 ときぐし
罍 らいざる
篋 ふご
風爐 ふうろ
提盒 ていごう
絹篩 きぬふるひ
薑擦 しやうがおろし

飾 かざる
燧 ひうち
臼 うす
觚 さかづき
籠 かご
筍 たけのこ
雪洞 ぼんぼり
耳壺 みみつき
糊刷 のりばけ
豆

箸 はし
火吹 ひふき
唾壺 たんつぼ
杼 ひ
簞 たんす
漏斗 じやうご
銅銚子 どうてうし
嚢 ふくろ
砧板 まないた
擂盆 すりばち

籃 かご
升 ます
湯婆 たんぽ
洗 せんだく
鍍 めつき
湯鑵 たうくわん
銅提 どうさげ
鎖 くさり
割刀 わりがたな
天平 てんびん

竈 かまど
合 ごう
温壺 ゆたんぽ
尊 そん
鐺 なべつる
水鑵 すいかん
提爐 さげろ
吹筒 ふきだけ
麪杖 めんぼう
流馬 ながし

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

秤 鑰 櫃 炬火 掃 渾儀 木魚 寶標 笛 押桶

錘 帚 傘 燎火 熨斗 磁針 鈴杵 錫杖 石燈 魚箸

槖 盞 吸筒 標榜 佛龕 五鈷 手爐 石碑 摺疊椅

鑷 櫛 拐 坦 署扁 佛座 三鈷 數珠 神主 交椅

硯 箱 杖 拄杖 竿 胡床 花鬘 靈牌 衩子板

酒帘 篩 籠 紙手 皺皮

鍰 和皁 燈檠 紙縷 煙盃

草薦 寶盖 短冊 土瓶 抽匣

竹席 鎖 輪 要 柳筥

麒麟 豹 豺 麋

獬豸 犀 狼 麤

獅子 象 鹿 麝

騶虞 熊 麑 綿羊

虎 貘 羊

国立国会図書館　頭書增補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

禽鳥之部

野猪 駒 牛 特牛 黄牛 狐 犬 兎 鼯 狒々 蹄

山豬 騾 牝牛 犗牛 狸 獾犬 獺 水牛 騣

豕 騮 犢 貉 鼠 牙

豚 騅 驢 駝 猫 馬 駁

鳳凰 鸛 鴈 鸕鷀 鸕鷀 白鷴 鶏 雲雀 吐綬雞 雛

孔雀 鴛鴦 鷗 鷺 鶯 鶏 鷺鷥 雉 山鵲 鷫

錦雞 鴻 鳧 鵁鶄 兄鶏 鷦鷯 鵐 鶏雞 矮雞

鶴 鵞 鴛鴦 鶺 隼 啄木 燕 青鳩 鳩

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

鴟鳩　鴿　鵝
畫眉　鷲　鵡鴒
翠雀　烏鳳　鵲鴒
竹鷄　蠟嘴　鵙
鳶　蝙蝠　鵯
秧雞　角鴟　鵐
鴘　鳩　鵐
駒鳥　椋鳥　鵐
鴾　山雀　鵐
深山頬白　九官　鵐
黄雀　菊戴　鵐
火雞　鵐
怪鴟　鵐
鸚鵡　鵐
小雀　鵐
喉紅鳥　鵐
鸞　鵐
鵙　鵐
杜鵑　鵐
雀　鵐
梟　鵐
鴉　鵐
羽斑鴉　鵐
文鳥　鵐
尾長　鵐
風鳥　鵐
蒼鷺　鵐
鴉　鵐
鴨　鵐
鸚鵡　鵐
烏　鵐
鵲　鵐
鷃　鵐
四十雀　鵐
繡眼兒　鵐
鸐　鵐
葦雀　鵐

鴆　鵐
羽　鵐

雉鳩　鵐
翼　鵐

豹鳴　鵐
嘴　鵐

都鳥　鵐
尾と　鵐

音呼　鵐
卵雛　鵐

巻之十四　龍魚之部

蛟　鵐
魚虎　鵐
鯢　鵐
鯀　鵐
江鮭　鵐
鯉　鵐
鰹　鵐

龍　鵐
鰐　鵐
鯛　鵐
黄檣魚　鵐
海鰻　鵐
鯔　鵐
艦　鵐

蠑　鵐
鯖　鵐
鮭　鵐
烏頬　鵐
鰛　鵐
鱸　鵐
鰯　鵐

鮫　鵐
鯵　鵐
鰺　鵐
鰷　鵐
鯊　鵐
鰈　鵐
馬鮫　鵐
鰈　鵐
鯨　鵐
鰕　鵐
江豬　鵐

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

鱣 鯉 鱒 鰉 鯔 鯽 鯇 鯰 鰻 鱓 鯒 鰈 鰕 鰌 鰍 鰒 鰹 鰯 鰤 鰆 鰺 鰑 鰡 鰭 鰓 鰾 鰶 鰛 鰥 鰔 鰐 鰒 鰹 鰯 鰤 鰆 鰺 鰑 鰡 鰭 鰓 鰾 鰶 鰛 鰥 鰔 鰐

鱣 鯉 鱒 鰉 鯔 鯽 鯇 鯰 鰻 鱓 鯒 鰈 鰕 鰌 鰍 鰒 鰹 鰯 鰤 鰆 鰺 鰑 鰡 鰭 鰓 鰾 鰶 鰛 鰥 鰔 鰐

鱣殘魚 鯉 鰉 鯔 鯽 鯇 鯰 鰻 鱓 鯒 鰈 鰕 鰌 鰍 鰒 鰹 鰯 鰤 鰆 鰺 鰑 鰡 鰭 鰓 鰾 鰶 鰛 鰥 鰔 鰐

鯔 杜父魚 黄鰭 鰭魚 鯖 金魚 鯒 鰈 鰕 鰌 鰍 鰒 鰹 鰯 鰤 鰆 鰺 鰑 鰡 鰭 鰓 鰾 鰶 鰛 鰥 鰔 鰐

鮫 鮞 鰯 鰤 鰆 鰺 鰑 鰡 鰭 鰓 鰾 鰶 鰛 鰥 鰔 鰐

蝶 叩頭 斑蝥 蜂 氣鰲 蛙 蜈蚣 蟫 蚤のみ 蚊

燈蛾 金鐘 紺鰲 蠅 蛤 蓑蟲 金龜 蟷髮 蠶蟲 馬蜂

蝨 蝱 蠛 青蛙 百足 蠶 蠅 蜘蛛 蠐螬 蚰蜒 蚋 蜈蚣 蠑螈 蠑

蜥蜴 蝘蜓 木虱 蠣 雀甕 岐首 蛞蝓 蛤蜊

蜣螂 烏蛇 蟻螻 蟬蛻 螳 螂 螳螂 蜈蚣 蚯蚓 蛭 蠅虎 蝮 蛇 蜂虫 芋蠋

銀蛇 吉丁虫 水馬 殼 滑蟲 蛞蝓 壁錢 螵蛸 土蠱 甲 蛻 蚓 水蚤 鼓蟲 兩頭 釭 虹

卷之十六

米穀之部

粳 糯 蕎 麻 粳 稷 麥 粟 稭 秫

国立国会図書館　頭書增補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

巻之十七 菜蔬之部

蕪菁 萊菔 豌 蜀黍 扁豆 刀豆 箕 糗 巧果

韮 雞 蜀黍 黎豆 飯豆 餅 餡餈 煎餅

竹筍 蘘荷 牛蒡 慈姑 胡麻 荅 蠶豆 燕麦

芥 野苣 醤瓜 松蕈 藜 薑 雞腸 薤 紫菜 蕈薤

菠薐 胡瓜 香蕈 茄 落葵 瓜 山葵 蒲廬 馬苣

碧蓮 蘘荷 胡荽 天蓼 獨活 絲瓜 瓢 水茄 蒲陸 芝 水松 石花 苔菜

冬瓜 蕈 海帯 燕窩

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

杏 梅 桃
柰 棗 栗
柿 橘 榧
鴨脚樹 荔支 來禽
香橼 枸橘 樹莓
楊梅 枇杷 木瓜
胡桃 菱 龍眼
松子 胡椒 李
柚 梬 梨
金柑 椎 銀杏
覆盆子 蛇苺 燕覆
枳椇 胡頽 慈姑
勃膊 茶
椒 烏桕
鴉瓜 沙糖
白柿 仁
甘蔗 蒂 紫糖
氷糖
甜瓜 苦瓜 核
漿
楓 檜 槿
杉 南燭 櫻
羊躑躅 映躑躅 杜鵑花
辛夷 女貞 芙蓉
錦帶花 粉團 紫陽
楊櫨 辟荔
角楸
松 仙桂 海棠
厚朴 冬青 梔
巻之十八 果蓏之部
巻之十九 樹竹之部

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

木槵 梫欄 黄楊 衛矛 鐵蕉
楠木 椋木 榛 木樨 桐
梧桐 楮 櫟 檉 紫荊
石南 瑞香 狗骨 接骨 桑
棟 五加 枸杞 樟 紫薇
石檀 合歓 榆木 葉 朱
藜 芽 寄生 白楊 水楊
柳 皂莢 槐 椋 梅檀
伽羅 柴 新 竹 望
篠 筍 箸 蘆竹 櫻竹

扶竹 紫竹 籜 筒
幾 無節竹 幹 杖
根 炭 柿 梢

牡丹 芍藥 虎杖 酢醬
蜀葵 芙蓉 麗春 萩 錦葵
金銭花 蘭 蔥玖 秋葵
剪春羅 他偸 萱草 蓼 雞冠
董菜 虎杖 金盞花 百合
櫻草 龍膽 秋海棠 山丹 蒲公英
射干

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

蝴蝶花　夏枯草　馬蘭
菖蒲　樣錦　桔梗
番椒　丈菊　杜衡
苔　旋覆　酸醬
棣棠　卷栢　玉栢
菖蒲　狐　萍
茖　蘭　艾
茘　蘇　鵪尾
慈　荏　烏頭
水仙花　麥門冬　鳳仙花
蒼朮　木賊　山蔥
石葦　螺厴　芭蕉
艾　華蔓　鼠麴
陵苔　蒨　山薑
車前　蒼耳　龍芮
積雪　苦參　蛇床
葛　鴨跖　天南星
水葭　牛膝　茴香
青蒿　莞蔚　玄及
忍冬　木賊　馬勃
石葦　螺厴　石荷
艾　華蔓　芭蕉
陵苔　蒨　鼠麴
車前　蒼耳　山薑
積雪　苦參　龍芮
葛　鴨跖　蛇床
水葭　牛膝　天南星
青蒿　莞蔚　茴香
忍冬　木賊　玄及
石葦　螺厴　馬勃
艾　華蔓　芭蕉
陵苔　蒨　鼠麴
車前　蒼耳　山薑
積雪　苦參　龍芮
葛　鴨跖　蛇床
水葭　牛膝　天南星
青蒿　莞蔚　茴香
忍冬　木賊　玄及
石葦　螺厴　馬勃
艾　華蔓　芭蕉
陵苔　蒨　鼠麴
車前　蒼耳　山薑
積雪　苦參　龍芮
葛　鴨跖　蛇床
水葭　牛膝　天南星
青蒿　莞蔚　茴香
忍冬　木賊　玄及

国立国会図書館　頭書增補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

筴 莢 莖

蔓 建蘭

苞 金燈

石帆 藁

蓝 藍

巻之廿一 雜類

右弼金剛 左輔金剛 持國天王 韋駄天

鐘楚 辯才天女 福祿壽 大黒天 蛭子

布袋 壽老 神農 伏羲 倉頡

黄帝 老子 孔子 許由 山越弥陀

維摩 聖徳太子 出山釋迦 誕生佛 達磨尊者

不動明王 龍猛 善導大師 天台大師 傳教大師

役行者 寒山 巨霊人

費長房 大公望 張九哥

蝦蟇仙人 西王母 迦陵頻

晉王羲之 人麿 白樂天

衣通姫 小野道風 琴

蹴鞠 目利 諸礼

馬 劔術 将棊

立花 山伏 能

浄留理本 三絃 芝居役者

軽業 鉢敲 猿舞

六祖大師 以上雜類

琴高

鐵拐仙人

天人

東坡 以上詩人

香

弓

茶湯

狂言

人形芝居

拾得

上利劔

通玄

赤人 以上和歌三神

以上筭道

筭術

圍碁

鷹匠

小弓

鹿嶋事觸

芝居役者

猿舞

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

頭書訓蒙圖彙目錄終

萬歲樂

頭書訓蒙圖彙目錄

頭書増補訓蒙圖彙巻之一

天文

此部ハ日月星辰雨露霜雪ノ象ヲ載ル事多シトイヘドモ易曰仰見於天文

兩儀

天地開辟のころは混沌として清濁いまだわかれず天と地とわかれてのち天を陽といひ地を陰といふ陽は奇數にして陰は偶數なり

○七政とは日月と五星となり

日月五星天の政を司どる

木星を歲星といひ火星を熒惑といひ土星を鎮星といひ金星を太白といひ水星を辰星

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

こう〳〵木火土金水の五行の
星めぐりて陰陽そなわり歳
とるなり此五星と五緯とい
○太極は天地のまだわかれざる
渾沌
陽
幸鶏子のごとく
とろ〳〵めるごとく仏鳥毛の未判
とう〳〵其清陽なるものは薄
靡て天となり重濁りの滓
滞て地となりふたわく天
地開闢して其間ふ万物生ず
開闢以来此太極といえる天地
陰陽
○國常立尊は天地成
て其中に物あるなり葦牙

大極

倭國

國常立尊

のごとく則化して神となる
○国常立尊といえる
此義なり是より天神七代地
神五代ひつぎて人の代
となり唐にては天地開闢
て盤古氏といえる是人乃
始なり日本と共に国常立尊
こつぎて人の代となる
○倭は日本を倭と号る事天
地開闢の後地皆水にて平
らかに人の代となりて
を平地となして住りゆえに
日本は地の継という義とぞ
住国とかけり

唐土

盤古氏

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○秋津洲とうへいの人皇のはじめゆりそ神武皇帝と尊稱奉る即位三十一年四月帝諸國ふ幸ありし日本乃地秋蜻蛉ふ似ることよりして秋津洲と名づくるなり

①そもそも日本國い唐中華の地より東ふあるゆへふ日東とも扶桑國とも称ふ二ツ須彌山の南ふあるゆへふ南贍部洲とも用明天皇のころ五畿七道ふさだまりし文武天皇の御代ふ六十六ヶ國にわかちて諸國ふ守護をおく東武ふ將軍ありて諸國を守護せり西京中國天子の都をおくゆへふ内田地の數凡九十四万七千八百一町餘高貳千貳百八万五千四百八十貳石なり

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○日は陽の精なり空虚にして丸くかぎりなくして鳥をうんで日の数とす陽鳥あまたなり二足ともに陽数のごとし

○月は陰の精なり空虚にして丸くかぎりなくして兎をうんで月の数とす兎は陰の獣なり白色陰の色なり

○北辰は北極ともいふ天の樞なり一周天のめぐるを此北辰を樞となづけて北に位して諸の星ことごとにしたがふ北辰の座ふたつ星あり四星あり

○列宿此星天の東西南北に位して四方各七星づつあり合て二十八宿なりと云ふ二十日に行りて終日ゆくなり

○晦　毎月大の月は三十日小の月は二十九日を晦とす月地下をめぐりて光なし一ところにて晦の字をよこたへなり昏晦暗晦のあつまるなり

○朔は蘇なりまたよみがへる月二十五日より晦日までは日ごとに光なくして朔日にいたりてまたよみがへる故に朔日といふ

○弦は二十五日て上弦とのぶ下十五日にて下弦とのぶ上弦は西の方下弦は東の方なり上弦は七日八日九日下弦は廿二日廿三日廿四日にわたりて月の半ばかたちあり

○望は十五日の事なり十五日は日月東西よりおひ望むゆゑに望とのぶ日月ともにまんまるなり

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

月初新にて月の光地の方に在て天より故ふ満月なり

○日蝕は日月天ふ在て日は上なり月は下より朝日は日月の舎なり日月上下にありて道を同くして舎を異にし地より見るに此日は月のうふふる是を日蝕と云

○月蝕は月は一日乃至五六日の先後にて明るものなり日月道を同くしてそむく地は月あるゆへ日の光地を遮る月蝕を

○星は陽精なり陽精は日なり日は一なり故に星多し故に日蝕とは云ず星とは云

○昴星は西方の一宿なり旄頭星ともいふ俗ふるくる星といふ是なり星の列座同ぜるゆへ

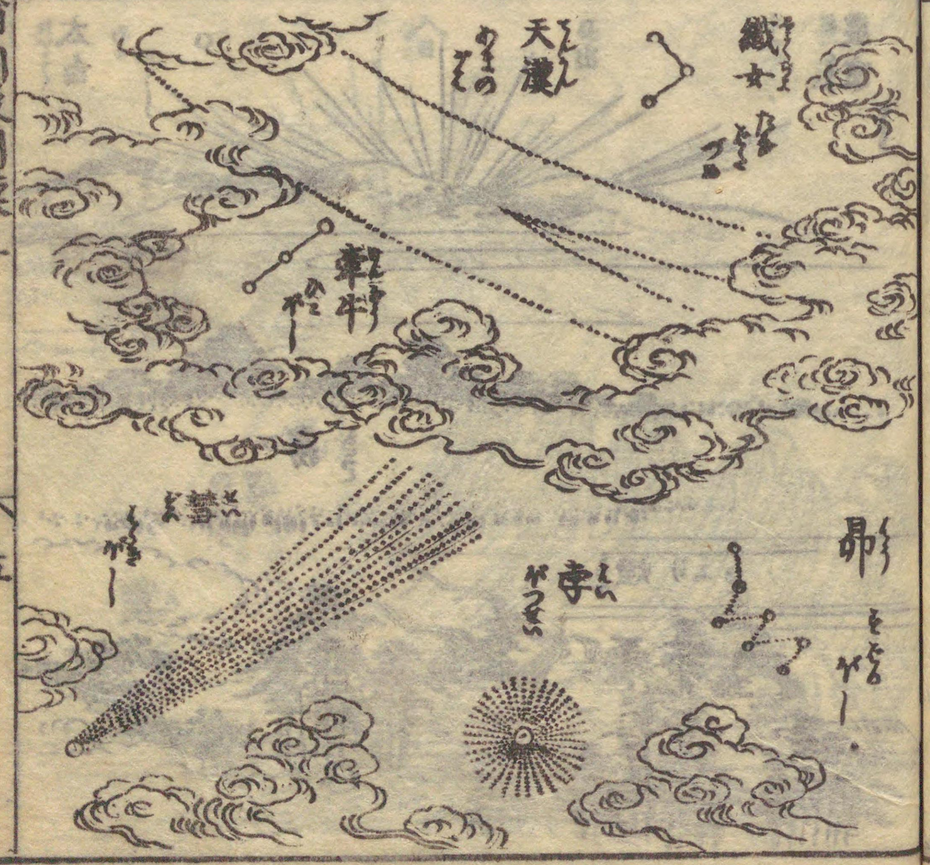
○参星は西方七宿の一なり俗に是を星の列座といふ也

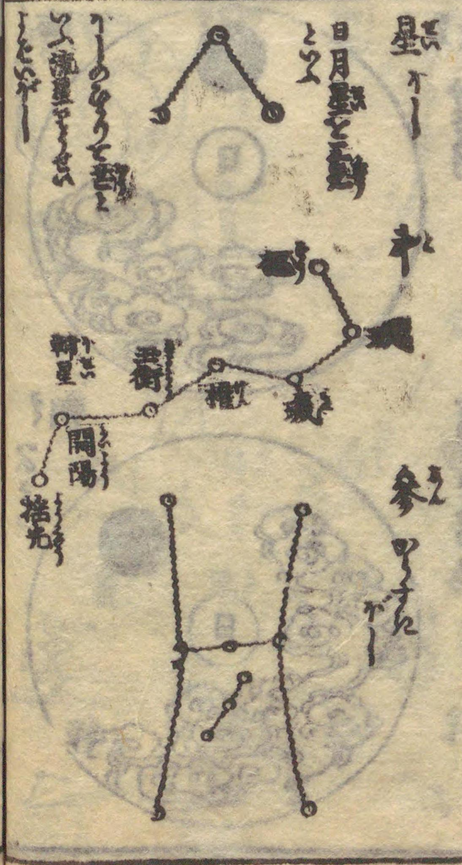
○軫星なり輔星ともいふ

○奉牛は星の名なるゆへなり

○織女は星の名なるゆへなり七月七夕の菓と地上にをる人五色の糸を針に掛て祭ることといふ

ふ二星の間ふなりの名也是を乞巧奠と云





国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

巧匠ともに七夕祭ることいへり

○天漢　天河　銀河　雲漢　雲漢　雲漢

○雲が山川の氣より地氣のぼりて雲となり天氣くだりて雨となり雲は陰の精より升りて陽の用となりみな雨濕の氣より

○雨は氷寒て雲となりそろそろ雨となるひさしき仏暴雨といひわかわかて霖雨といひ久しく仏驟雨といひ時雨て詞となり

○雷は陰陽わかれ激する声なり王充論衡といへる書ふ雷の形二人のかたちのごとくにして鼓をもて連鼓をたゝき持たるのごとく鞭をとりてくうちて声をなすといへり

○雷は二月ふ有この月陽氣新にさんじて陰気とうとの激をるひとりと電となり俗にいなびかりといへる雷神と雷母となり

雲
雨
雷
電

○暈は日月のかさなりの氣かさなりてこの日暈あらはれいでゝ一月暈あらはれ三日のうちふ雨ふるといへり

○雪は雨ありて雪となる天地乃積陰あつまりかたまりて雨となりてひさしくれい雪となる

花とのべ仏雪をこのひ圓なるを竜といへ又銀花とも六出花とも銀屑ともいへり

○氷は陰氣のあつまりてかたまりてこほりとなりいひをかさく氷となる氷と書いのまゝ氷と書べし氷つもりて凌といへ氷さんなる仏凍といへ氷なかりて漸といへ氷となる洋こと氷室はひろかる

暈
雪
氷

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○虹ハ日雨ト交テ質ヲ立ル
日ノひかり雨ニうつるふろく虹
ノうつる朝ハ西ニあり暮ニハ
東ニあり色鮮ナル雄ヲ
闇ト雌ヲ俗ニ蛇ノいきとう
蝃蝀 霓同トもニトあり
○雹ハ雪こおりて圓ナル
ものヲ雹トいフ寒氣つよくして雪
かたまりて粒ノ寒氣つよきときハ
雪かたまりてそのやをノごとく雹となる
瓔珠 玉粒碎玉 銀米 明珠
同ジ雪雨にまじりふる
ものヲ霰トいフ
○雪水寒にひとかたまりて軒
のつらゝとなりて氷ハしらる
氷筋 氷條ともニ書ケリ氷箸
ともいフなり

虹ハ
雹ハ
氷柱

頭書增補訓蒙圖彙 卷之二

地理

此部ハ山ノ川田園林丘村市のさまざまの
地乃條理なり易云俯察於地理

○山ハ高大ニして石ありて
草木ハ廣雅云山ハ産ノうるおい
万物ヲ産ノうるおい説文云山ハ宣
ナリ宣ハ
○峯ハ山の端ノとがり山ハ大ニ
して高ク峯ハ小ニして山ノ
たゝなゝと峯とハつゞりよこ
かたまて唐ハくノ香爐峯日
本ニハ富士峯ヤうノ嶺同
○巓ハ高山のいただきノとがり絶
頂ハ詩經ニ泰山乃泰ヲ
首陽之巓ノうへ山巓ともニ

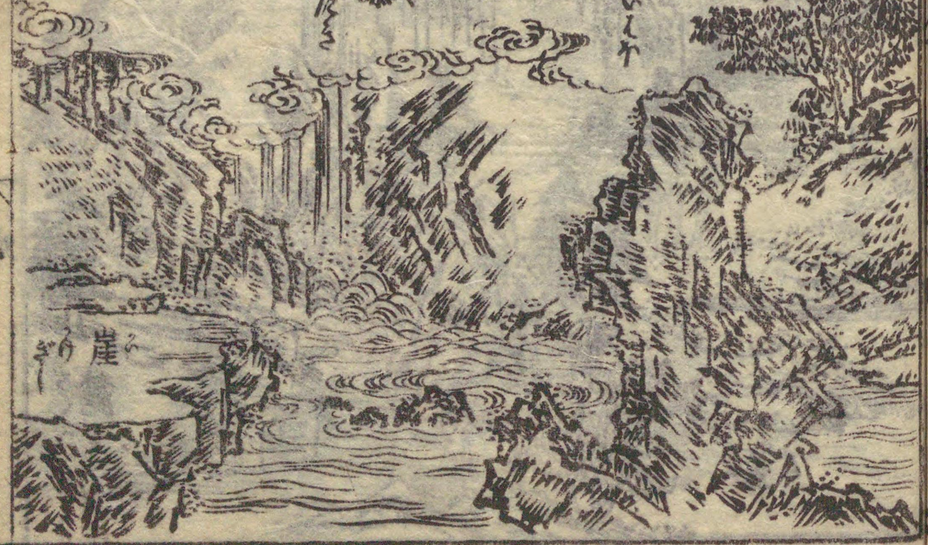
山ハ
巓ハ
峯ハ

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

高嶺（たかね）ともいふ
○坂（さか）　坡坂（はさか）ともいふ山中（さんちう）の高（たか）くけはしきこと坂（さか）なりふ坂（さか）と證（しやう）とうふ　磴（とう）同（おなじ）
○嶽（たけ）　いはつゝきの高山（たかやま）をいふ　山城（やましろ）の神嶽（かんたけ）近江（あふみ）の比良（ひら）の伊吹嶽（いぶきたけ）など
○谷（たに）　両山（りやうざん）の中（なか）を流水（りうすい）ありて溪谿（けいこく）同（おなじ）水谿（すいけい）にて谷（たに）と山（やま）の間（あひだ）より水（みづ）のながるゝ澗（かん）とうふなり
○丘（おか）　土（つち）の高（たか）き所（ところ）をいふ　四方（しはう）より中央（ちうあう）ひくくして丘（おか）をなすをいふ　阜（ふ）同（おなじ）　阪（はん）ともいふ
○盤（ばん）　石（いし）の平（たひら）なるをいふ　盤石（ばんじやく）ともいふ　重記（ちやうき）

○巖（いはほ）　いはほ　いはのおほきなるをいふ　石窟（せきくつ）をも巖（いはほ）ともいふ　石室（せきしつ）同（おなじ）
○磯（いそ）　水（みづ）のうちにある石（いし）のことをいふ　礒（いそ）同（おなじ）　礒石（いそいし）ともいふ　礒辺（いそべ）小磯（こいそ）　礒石（いそいし）　岩（いは）同（おなじ）
○崖（がけ）　山邊（やまべ）の一方（いつぽう）よりそばだちのぞきたる所（ところ）をいふ　同（おなじ）意（い）の懸崖（けんがい）ともいふ　補陀洛（ふだらく）ふだらくともいふ
○瀑（たき）　瀑（たき）の字（じ）を書（かく）なり　いつる白（しろ）きを布（ぬの）を瀑（たき）がくなどいふ　瀑布（ばくふ）ともいふ　日本（にほん）にては布（ぬの）のみをいふ　なるほどそこに小（ちひさ）き靈山（れいざん）名（な）ある瀑（たき）あり　此（この）瀑（たき）を飛泉（ひせん）ともいふ



国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

そもいふ

○桟　棚の如く閣なる木橋　又桟道とも閣道とも　補　乃ち道ともいひけんその山坂きりて通ふ道なれば桟道といふなるべし

○洞　深遠くして洞のごとく通ずる道　又仙洞　仙人のすむ洞乃ち洞同　山と岩穴ありて袖と似ると袖ともいふなるべし

○麓　山足なり　林山うづくと麓とのみ麓鹿のおほきこと叢のごとし　又鹿しかなり　鹿はこのんで林ふかきものなり

○林　平地にして叢木おほき地　林のごとく木のおほきもの　又林の草のおほきもの　又薄きを薄林といふ　叢同

○岬　山乃ち海へさしでたるところ　越前よし金岬　みさき同

○村　人のおほくあつまる所　又村落　本邦にては郷　郷より小なり　経史に村のまち　郷は邑ふたつ以上　村は邑ふたつ以下　今通じていふ　邑同

○川　水の流れ地を穿てゆくものなりとて川とかづく　又河とも書く　補　大なるを大河　小なるを小川　江は入海なり　補

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○渕い水中の窪つと雫り人鳥などのあつまり息憩ふ小渕と猪いつかごとり水清石のある所積とうつそり水沙土にながると瀬との間磯いつそり

○波い風水でうつて紋でみをと波とのへ水波い水紋なる浪瀾とうふ同一大波と寄とのへ連いさと波なり入澪と潮頭とりつそり

○滴い水のそろそろ水のろろく把のまいかなをしのろろ入滴水のよなそり

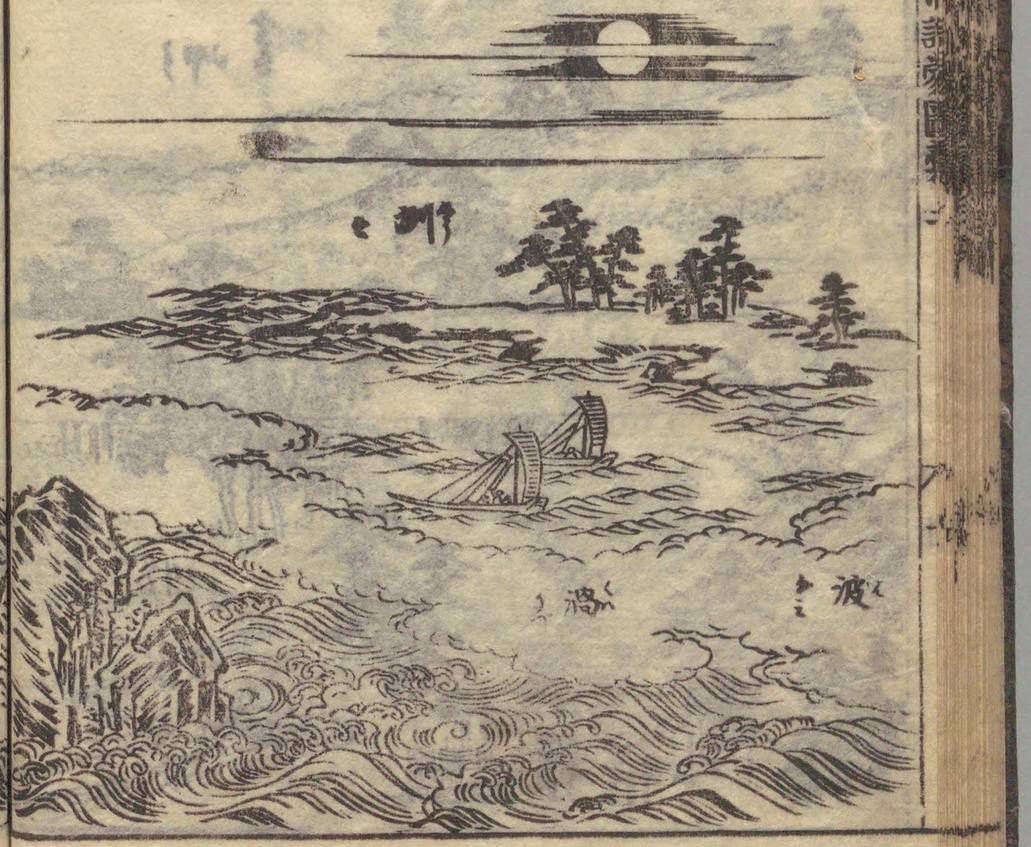
○島い海中にありてそろを島とのへ鴎嶋鳧なり同一連葉方丈瀛洲と海中の三島とのへ

○海い晴なると荒遠にして真蒼なる意なりへ海い熾でうりて真水黒しして晦のそろそろそろ朝いしかなり

○岸い水涯の高きをいへり俗のいはゆるしにうの波そろそろ岸なの波ねをおにうり

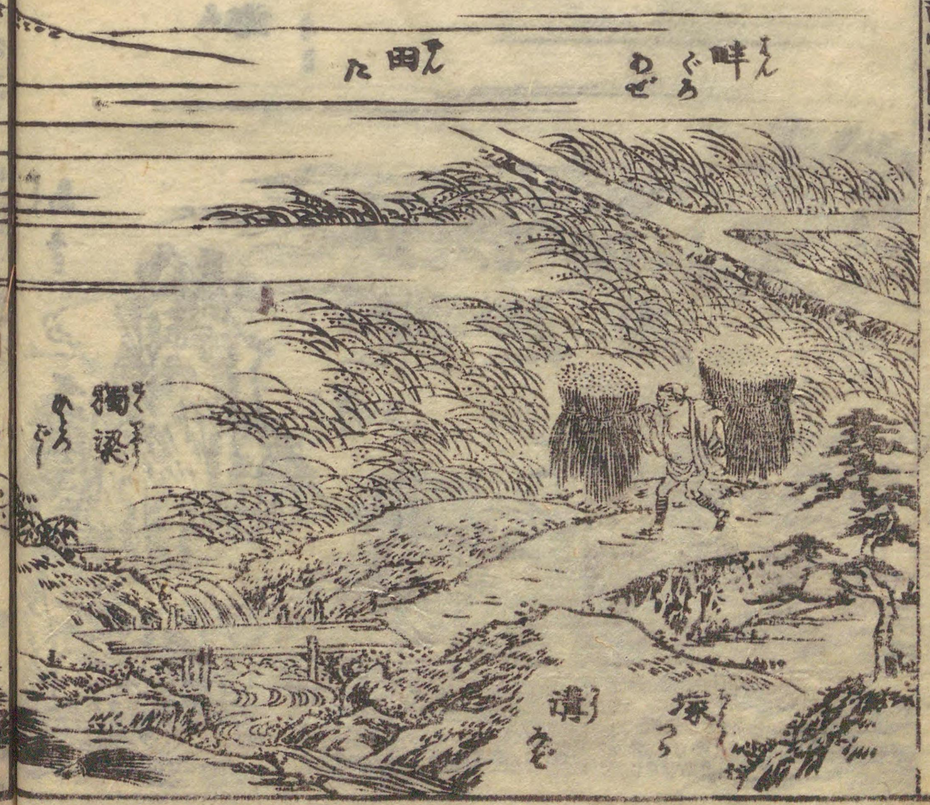
○濱い水際なり涯いかりう浦うろろ同一水際の平沙そて汀とのへみぎわろひろ磯濱のろろと濱とのへのろろ河濱水濱海濱そもと通

○田い土て耕の名口い田の四方のろろ中に十のまい田の阡陌そみぞのろろなり

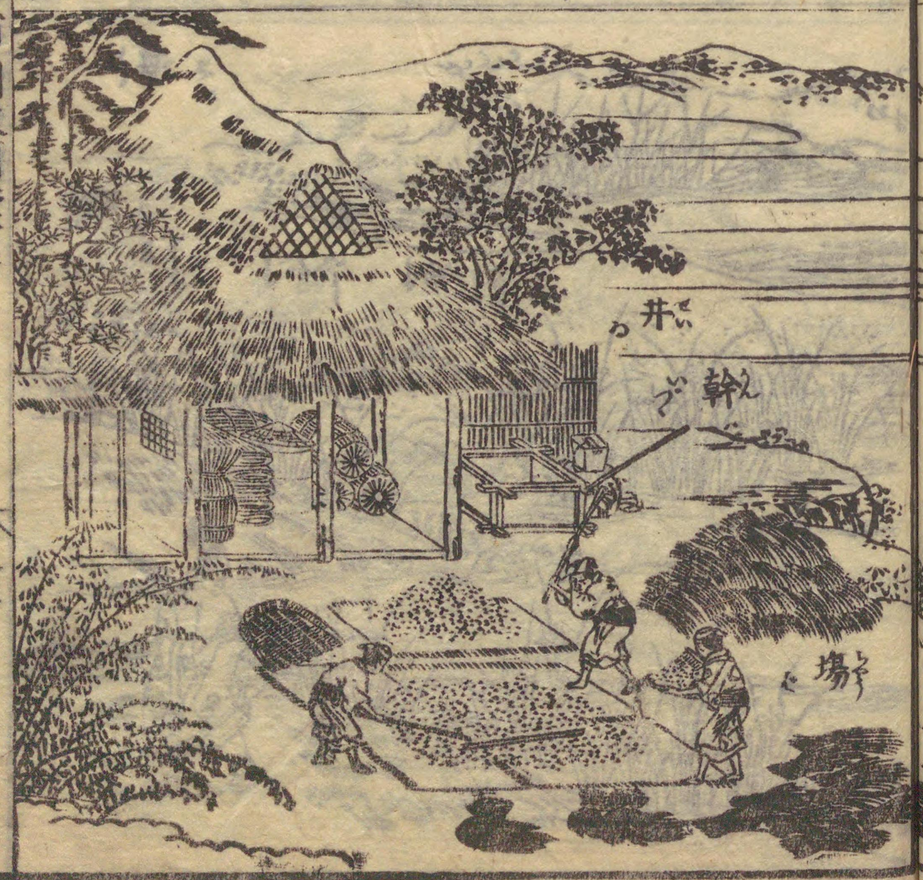


国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

畔（くろぜ）
○畔は田の界（さかい）なり
畦（あぜ）同
○畷（なわて）は縄手（なわて）の略（りゃく）にて縄（なわ）の如（ごと）くまがりくねりたる道（みち）をいふ
○畝（うね）は畦（あぜ）と畦（あぜ）との間（あいだ）の國（くに）ふい耕（たがや）したる處（ところ）をいふ
○溝（みぞ）は田間（でんかん）の水（みず）を通（とほ）す溝（みぞ）を構（かま）へたるをいふ
渠（みぞ）同
○獨梁（どくりょう）は獨木橋（どくぼくきょう）にて一本（いっぽん）橋（ばし）なり
○塚（つか）は丘（おか）なる古墓（こぼ）をいふ
○封（ほう）は古墓（こぼ）をいふ
○墳（ふん）は塚（つか）のことなり
○湯（とう）は五穀（ごこく）をいふ



土（つち）を築（つき）て墳（ふん）とする地（ち）を除（のぞ）く
○社（やしろ）は土地（とち）の神（かみ）ところの氏神（うじがみ）
○里（さと）は人家（じんか）の禾穀（かぶく）をあつむる場（ば）をいふ
○市（いち）は賣場（うりば）なり
○井（い）の傍（かたはら）を井（い）のりといふ
○鵜（う）は羽（は）の色（いろ）烏（からす）の如（ごと）くにて人（ひと）を水（みず）の中（なか）に入（いれ）て魚（うを）を捕（とら）しむる鳥（とり）なり
○鳳凰（ほうわう）は梧桐（あおぎり）ならでは棲（すま）ず竹（たけ）の實（み）を食（くら）ふといふ



国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

ふりのさとべ鶴とおそろくがさ

○澤　水のあつまり聚るところ

○澤に杜若河骨菖蒲いぐさ蛍ぐさ萍の類

○石の山骨　石くさの石菜上て金銀銅鉄を生ど星おらく石くさの木石に怪の石うの木を生ど

○磯　いふ石かるさでもいし

みづぐさ　ひるぐさの石

○砂　細散の石　砂ぢ

ちりやすりかな　読文ふ水少ふ

の義　砂ぢ　細砂ぢ　ほそごいさごと同訓

○池　池地とうく水と溜ろ

とう〳〵沼も同じ　四角かる池と方池といふ

○泉　水源水かるとくとう湧

うく〳〵温泉とて金いづる沃泉とう〳〵冷ると出て泉とう〳〵病を治とう〳〵温泉こう〳〵そゆう地とう〳〵黄泉とう〳〵

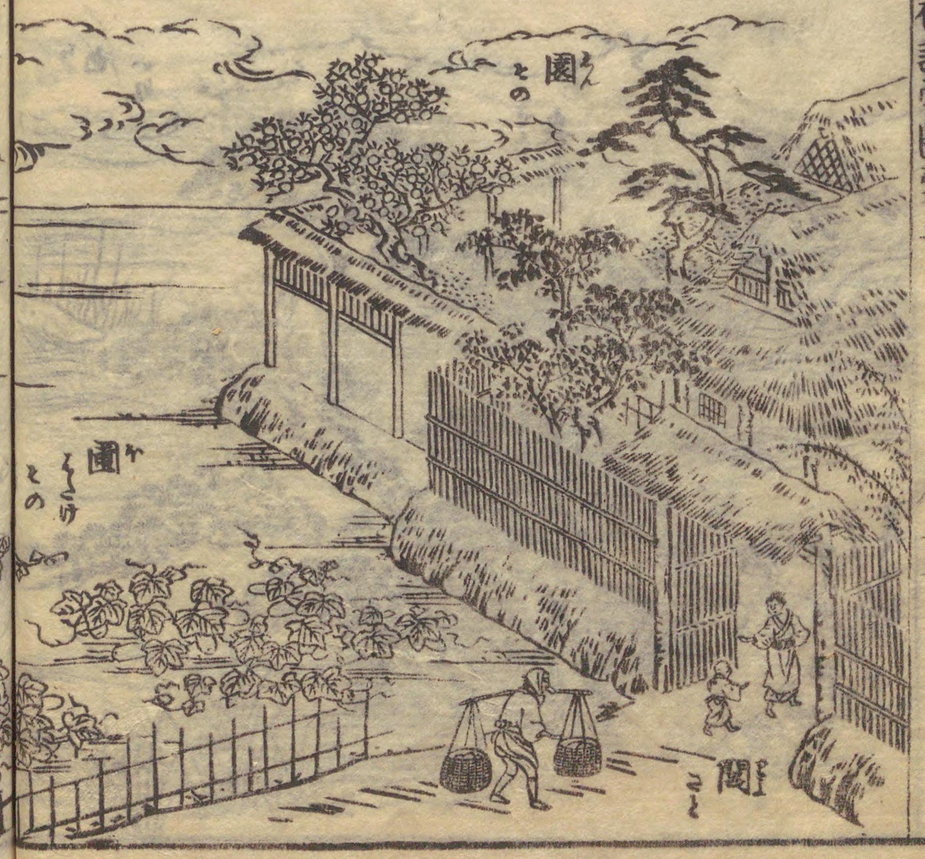
○塘　池塘かる池のやうなつつみ　俗にいふ堤をとうくろう〳〵柳塘　とう〳〵柳塘莫々暗二啼鶯一

○園　果をうゑるところ

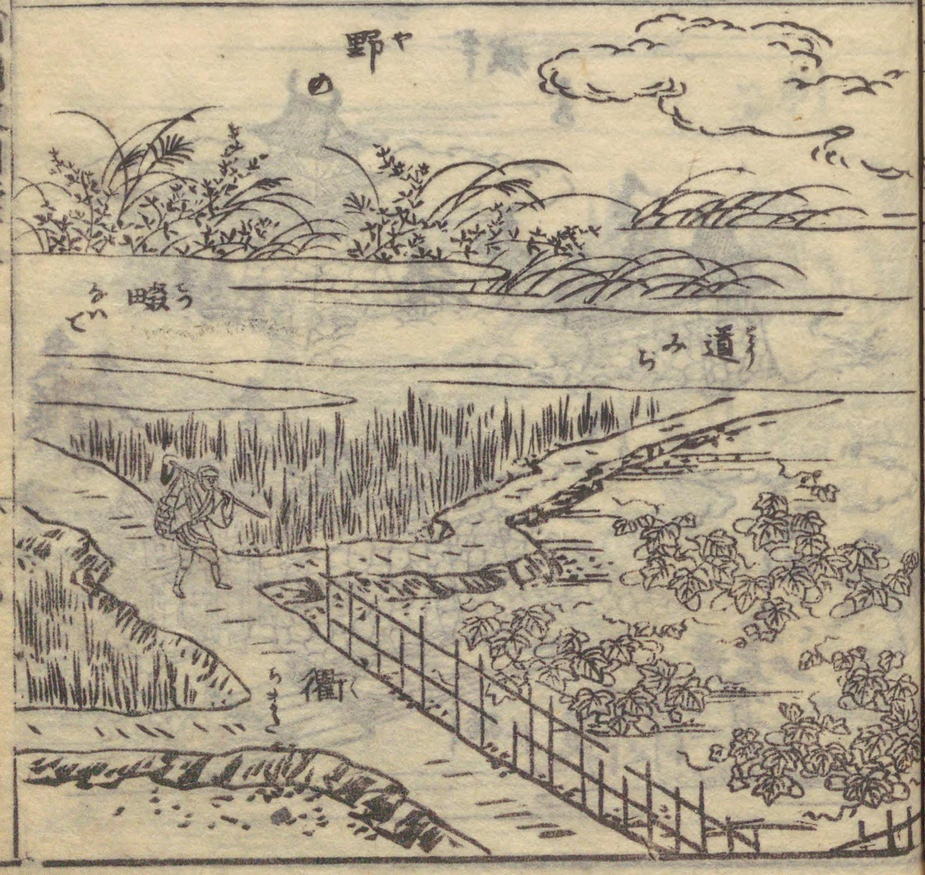
国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

なるこの次やへ畑花
この垣ひる畑園とうつろ
もものと訓を薗園今俗
はうせどなるいへ
○圃菜をうゑる所なり又果ふをうゑ
もつてこれをかこひ又我不
遺老圃と孔子もの玉ふ
論語の説へくう
○問〔里門今の在所
の惣門なり又家二十五軒
をとりる在所を閭とう又閭
巷とう
○郊外と野とうへり野
ゆくりて平なるを原と
こゝろへんやすく野原とう



整同一野と書いわるまり
○道ハ道路なり途同一
徑ハこみちなり
用明天皇のころ五畿七道ふ
るろ文武天皇のころ六十六
箇國とるろ
○疇ハ田の間ノみちなりて
てあり俗ふ繩手と書繩を
引てるがごとく直けこいろり
○衢ハ四達の道なりろく
十ほ街とうたちまちなり俗
に辻のまた書てつじと讀
衝衢洞達とうり
○城ハ貴人にろろしも
のとうへくうへ蘇とうへうり
けてあるくうへもの囲と城と
その外と郭とうへ天守狭間



国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

多門　武者屯　櫓　大走
虎口

○塁　城をめぐる水ほりと
坑　塁となる坑壕をよび同
城郭のやうなり

○封疆　封土を疆とす
きうくわい　洛陽　大内　秀吉公
のごとく東西南北へ封疆をつ
くりてかこうのごとし

○橋　いりうきう　島王　とう　塁
人つくるをいふ　梁も
書　ほり　江　いしばし　ほり　死
うらうらばし　ほり　板橋　つきはし
石橋　いしばし　土橋　どばし
歩橋　かちはし

○市　いち　神農　しんのう　ときをつ

城

塁

一封疆とて

橋

祝融　しゅくゆう　ときをつ
賣買の所を市といふ　補　今
俗ふる物店といふ　魚のごとき
呉服　ごふく　などいふ　ほり

○津　水の會　あひ　ところ　ほり　舟
つきいれ　ほり　難波津
大津　今津　甲斐津　など
いふ　ほり　伯　いかだ　ほり

○浮橋　うきばし　ふねばし　浮梁
も書べし　ふねをつ
ながべてうへをわたす
水ふかくして橋をかけがたき
ところにもちひて堰
とめくむ　塘堤同

市

津

浮橋

国立国会図書館　　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

柳堤ハ補堤ヨ柳ヲ植ルヲ云

○閘ハ水門ナリ俗ニ樋ノ口トモ云

樋ノ口トハ田ニ水ヲ入レ又引ノケ水ヲ

○堰ハ蛇籠ヲ石ヲ以テ水ヲ

ヲ堰キ留ルヲ云

水通ニ田地又ハ屋敷ノ高キ所

ヲ堰ル多クハ補俵ニ土砂ヲ入水

ヲ堰ルヲモ云ナリ

○水柵ハ竹木ヲ以テ

ヲ設ケ水ヲ

ヲ防ク為ナリ

閘ハ

水柵ハ

○關ハゆるす

ノ字ヲ

ヨリ出ル所ナリ

風破ノ關　鈴鹿關　逢坂關

ハ三關トテ今ノ

ヲ云ナリ

箱根ノ關ヲ

ノ東ノ真先關所ナリ

峠ハ山坂ノ

ヲ云ナリ

ノ字ノ形ノ

ノ峠　鈴鹿ノ峠ナリ

ノ山道ノ

往来ヲ峠ト云ヲ云ナリ

森ハ木ノ多ク生ヲ

ル所ヲ云ナリ

又警ノ森ト云ナリ

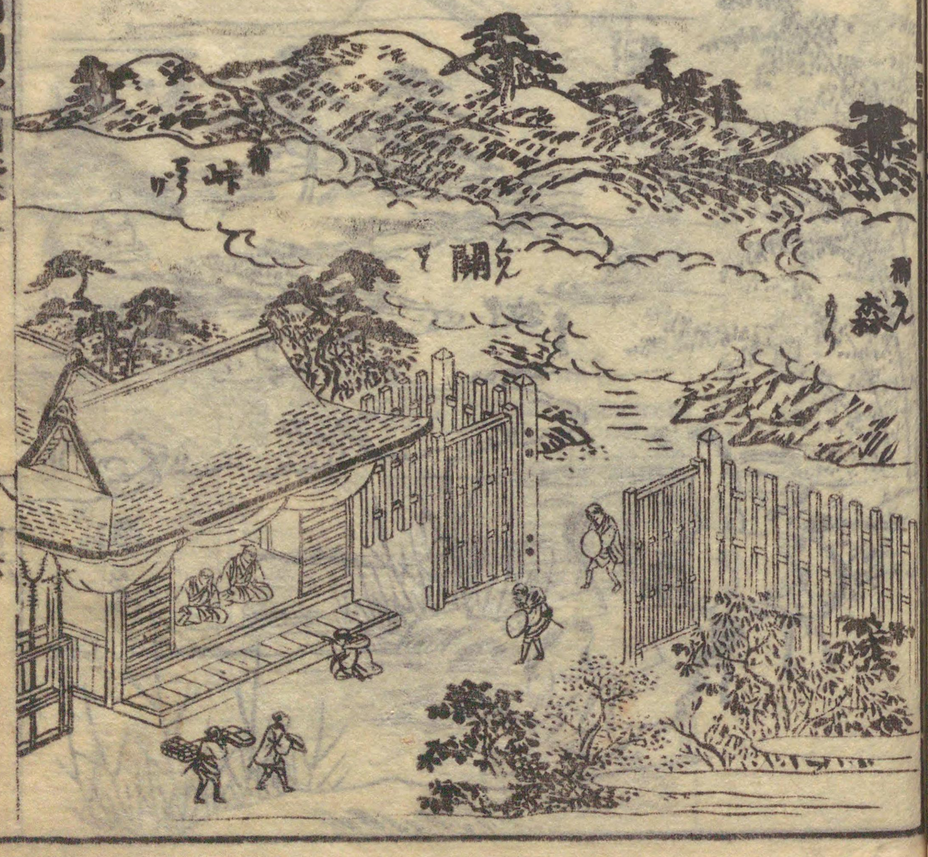
○牧ハ六畜ヲ

ノ郡ヲ牧ト云ナリ

番ヲ付ル所ヲ牧ヲ云ナリ

國ノ守護ヲ牧ト云ヲ武

ヲ云ナリ



国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

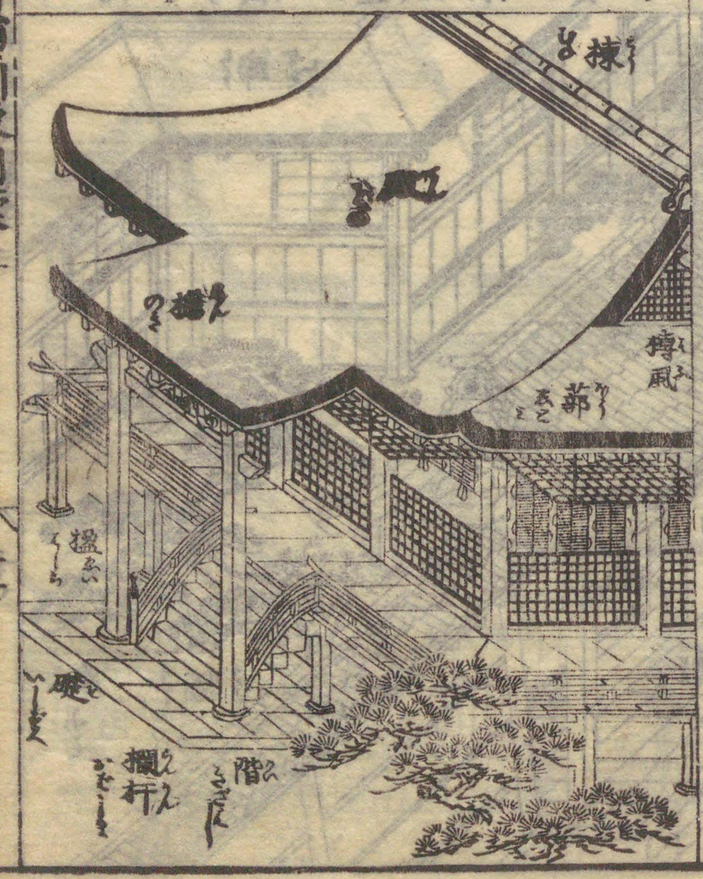
○墓の墓參のまよれ意味そ
ろそろといへ事あり子孫の
先祖を思慕をるあり塚も
同一天子のごう仏陵とい
塋同一壇つくるなり
補沼の池のごとくなるりの仏のく
又水かく泥土あるりのあり能
澤沼の同一をびかるとも
城國伏見に入沼あり葦芦
かと多くくへ水鳥の住所也
補數の竹林あり筆作淡竹の
二種を用ひて其性ごくく
數とかして造作又の器財能
ゆきまとめり

頭書増補訓蒙圖彙巻之三

居處

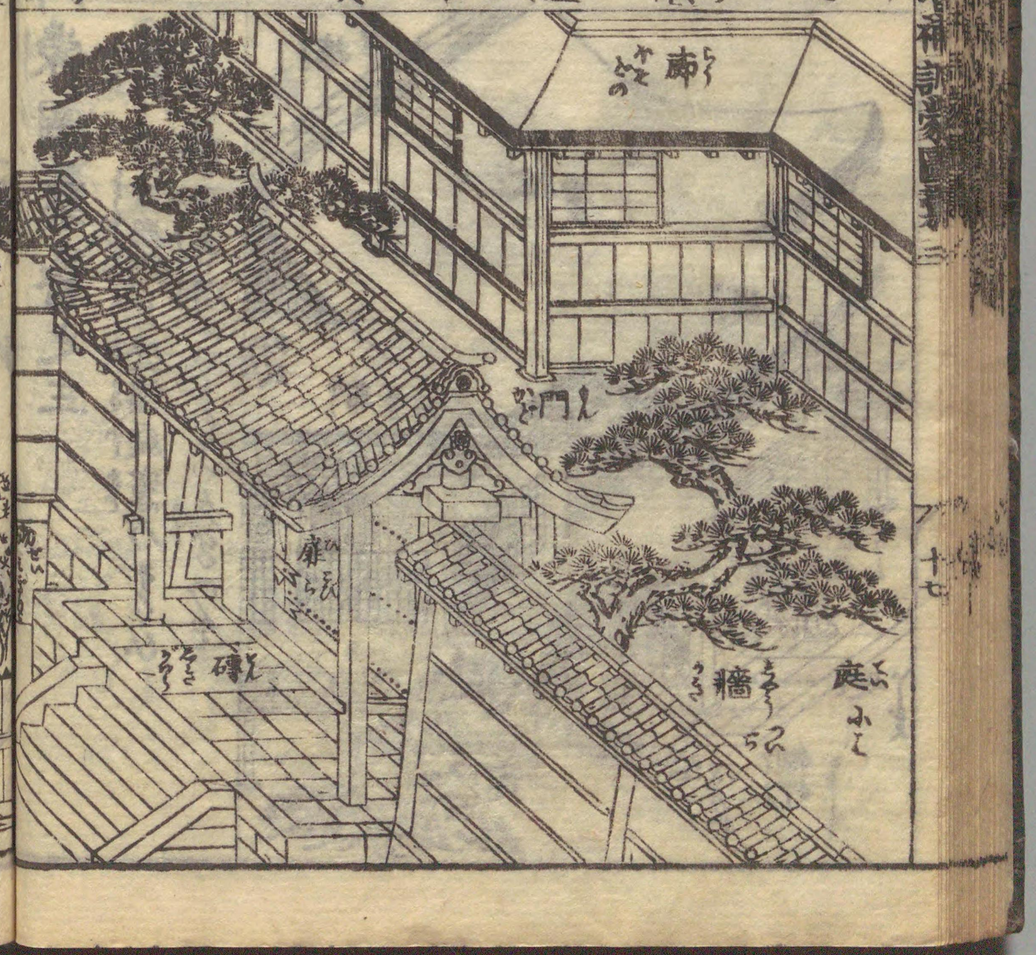
此部ふへ宮殿門戸壁牆庭窓乃そ
そで家居所ふるその文字あり

○殿ハ堂の高くして大なる
ものあり天子の居ゐる所ハ殿
こゝ殿乃天井に藻をかくる
藻ハ水草かき文字ともく
るゐとゝもり
○棟ハ屋極なる屋脊をいふ
こゝにいふ所ハ鴟尾ゝゝ
蛍ハ
○檐ハ簷字同一遠檐ハ
滴如琴筑と詩ふもにくゝもり
又檐のあまり水をいふ
歟ふとゝもるなり



国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○檻　殿門の左右にのごひて
お檻とつく柱同じ短檻を
つくらしむなり
○欄杆　階除の木句欄なり
欄干とも書かり干又檻に作
るなり
○階　砌あり堂に昇る道也
階級階除階墀ともつく俗
にきざはしといつく増ふるへ
からず
○榻　風炉榻とし床
とさるるあの名あり四もと
懸奥とつく奥の氷ふるもの
かとぺ床とさるるの名
○蔀　屋の檐よりあげて
えんがわさしかくるもの

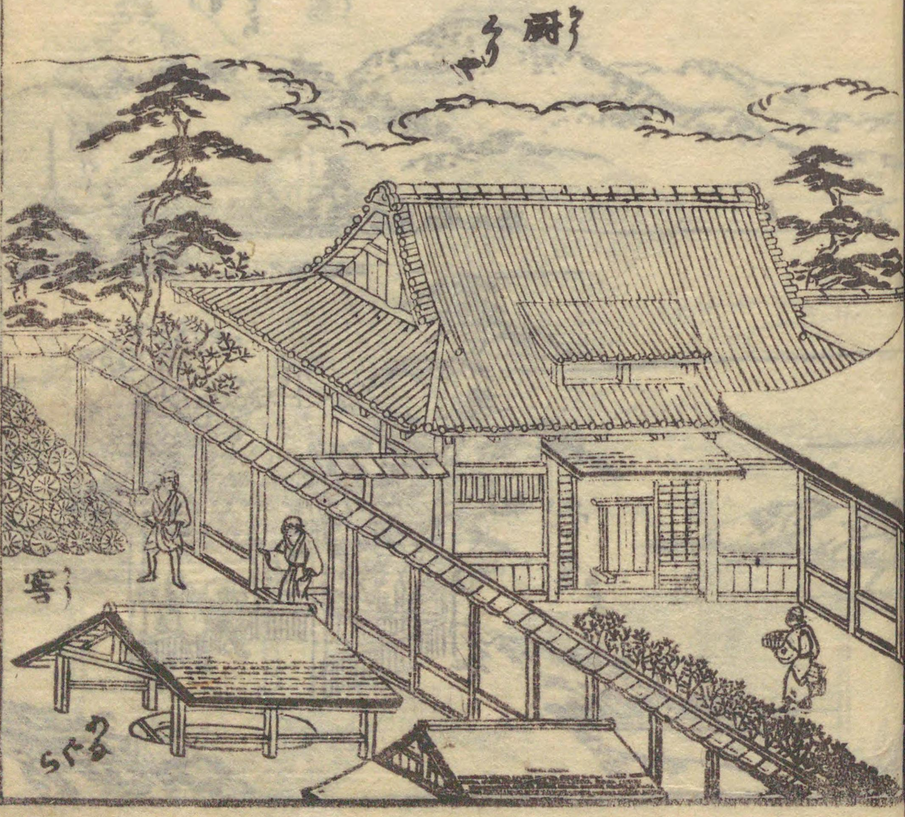


単にもやり戸蔀の同じ
ものなれとも蔀ハ
あるなり
○礎　柱の下に石あり詩を
ぬるふ韻字ともふむと礎とも
礩礎　并に同じ
○庭　門屏の内を庭とも
又砌とつくも庭あり
○門　両戸あるを門とも
扉闔扉ともふ門ふあり
○廂　殿下の外屋なりと
あり云云のの左右廂下廻
廊かんぬき殿へ
のさしなり
○牆　垣墉垣と同じ門
屏を蕭墻とつく蕭が書の
蕭あり君臣ふあひまもる

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

ろ形の戸屋にてして前
板をくりろあり
○扉　木にて作りて扉の
竹ぶしんをうちつけたる戸
戸扉　柴扉　竹扉なといふ
○磴　いしだゝみ又は壁磴ともいふ
墻垣並同禅堂かとふ有
○階　階の階　階ともいふ
にのぼりくだりする通ひて庭も
事かなり
○宮　唐もろこしの至尊の居所
と書ていふ　和朝ゆゝしき神の
居たまふ所を宮といふ又社
ともいふ
○華表　神社にたてる鳥
井かたりともいふ事

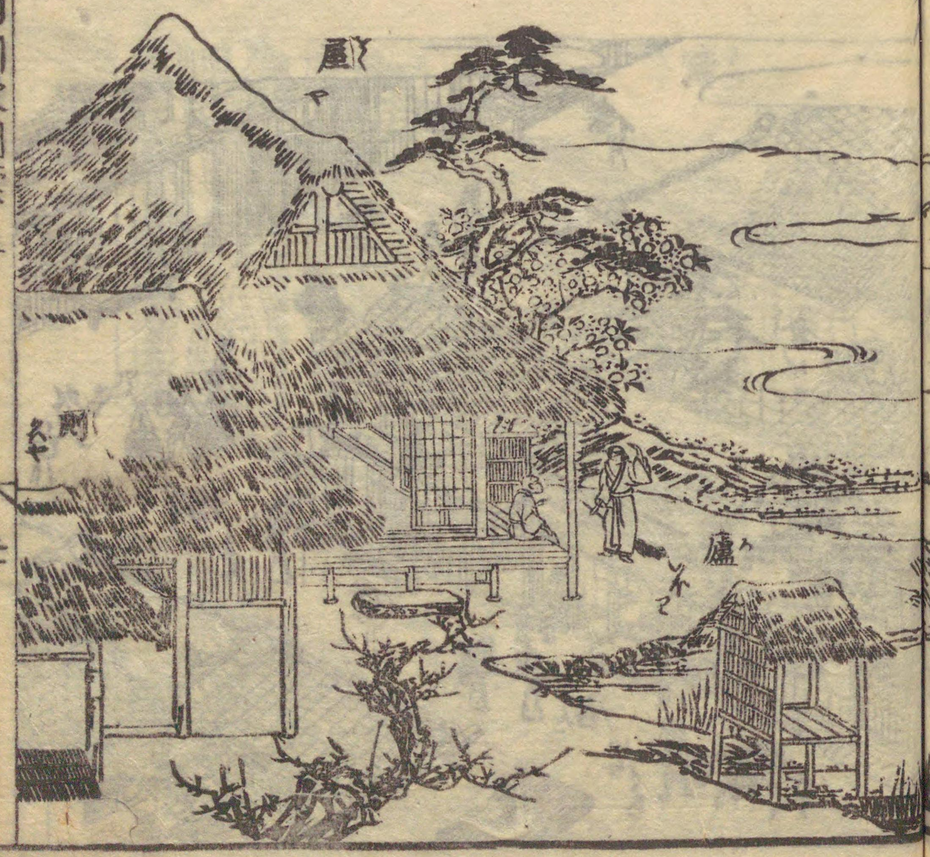
門かたりともいふ又天のまれる
ともいふ　鳥井とかく
事大笑ところのこゝろめ
なかり
○瑞籬　神社前のうち
玉垣ともいふ不浄のいたる
ことを門へ入ることく
○樓　いと重屋なり高くのぼる
上て物見ることあり入口俗
にちんとうと
○楯　扁子なり楯ともいふ俗
にひしともいふ又のきの下にも楯よ
ふ土のまもり
○雪打　佛殿樓閣又は二階
などにおほひ雨雪かどめ
打ともいふ俗にのきとうともいふ



国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

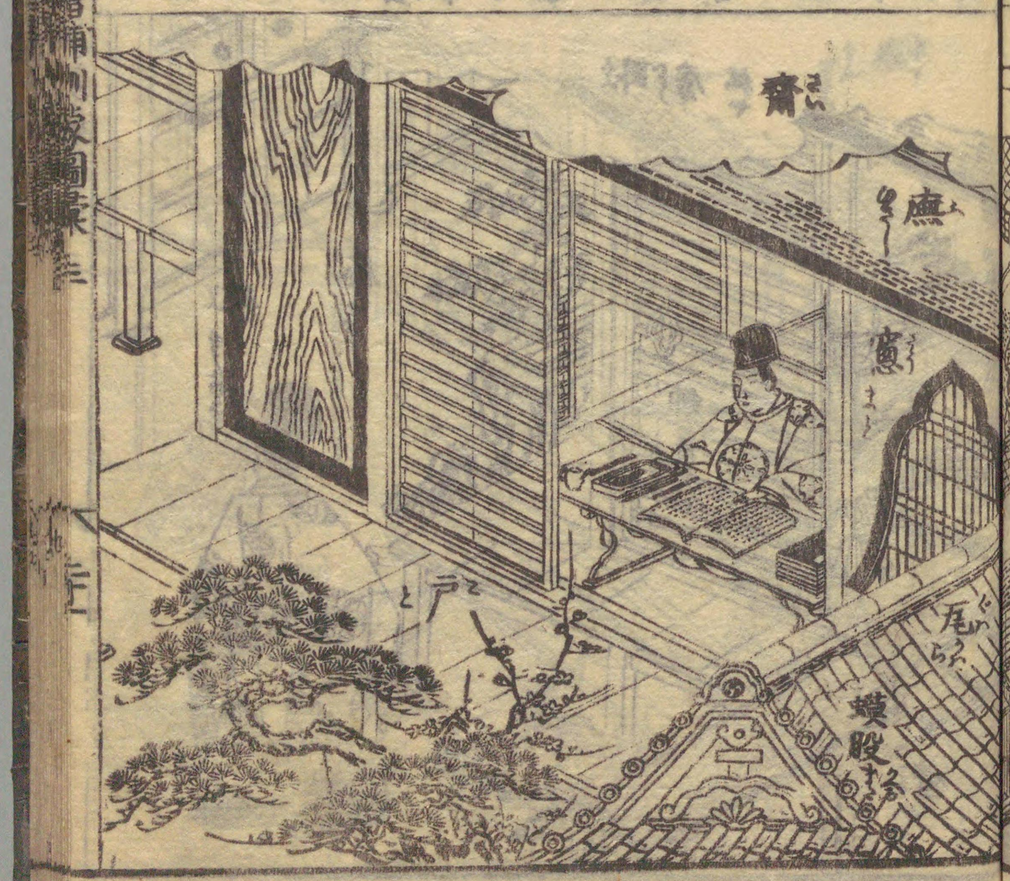
㊊老ハ擇タクヒ　ものゝ外ニ擇ミそろゆかりの人の説とのゝ事ともいふ　舎家屋　ともに同じ　㊋厨ハくりや　餓とのあかりの入口を料理ものゝ入庵厨ともいふ　俗名なり　㊌庵ハいほり　○菩ハ地蔵菩薩ともいふ　客ハかりそめのやどり　地ハところ　宅ハいへ　家財と人宝ものゝ　㊍寺ハてら　官人の居る所　多タハ天竺より仏経を白馬にのせて来しゆへ　鴻臚寺といふ　官人の居る所の名なり

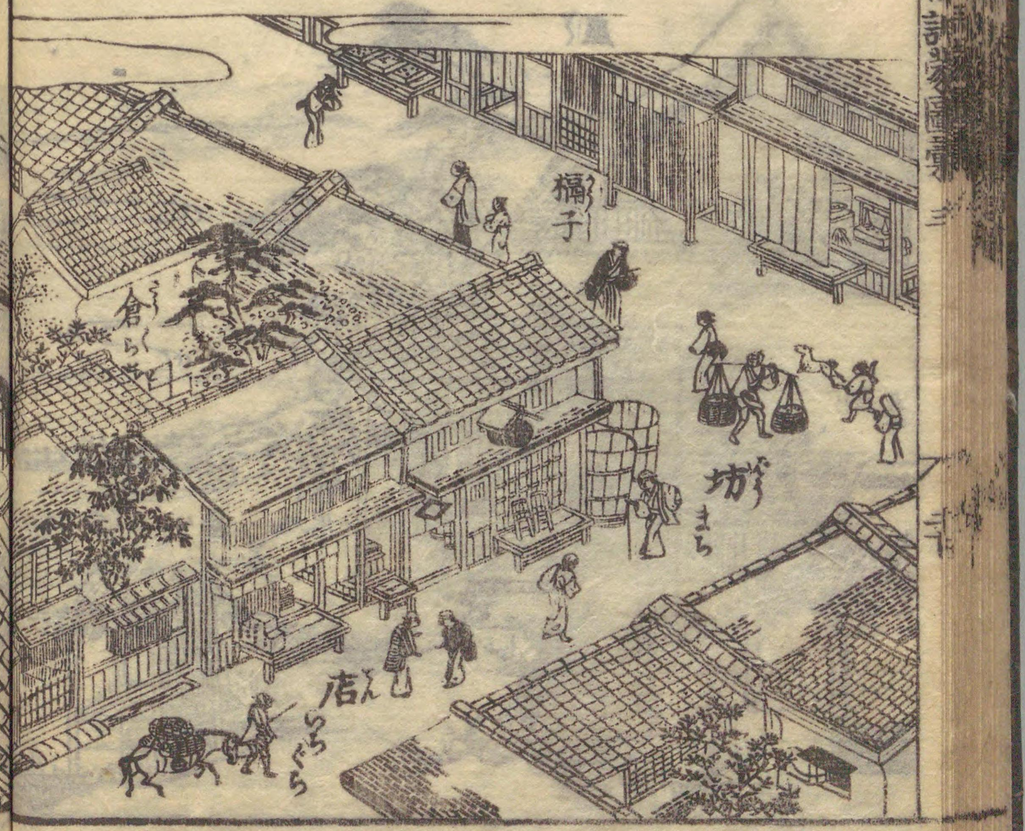
㊎塔ハてふ　一の長安小雁塔寺といふ　寺ハてら　塔ハてふ　進士名とその下に題と塔婆　浮圖同ト　㊏津ハ道路の舎所ハ駅宿會の郵ところのかり仮ごやどりところ　ここゝろ　高く立る棟ところ　㊐廬ハいほり　仏会タの大屋と廣屋とともに人家の真中ニ屋ともいふ　俗の屋とや　紙とて四阿屋ともいふ　俗の屋とや　紙とて四面の下ゝ屋ともいふ　俗の屋とや　紙とて　㊑岡ハをか　山の中ゝ屋ともいふ　草ふくものを草屋ともいふ　巻同



国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○書ㇾ
○園ハ園カラ酒ヲ作ルニ
書院ノ小キヲ書トシ木
ヲ清除トシテ
名ヲ難ナル人ノ
園ニ
○花ハ色里ノ名ニシテ
ウ京二条通ト銅駝坊ニ
ツヽ二ツノ別屋ヲ坊ト
ス清坊寺坊ナリ
○居ハ物ヲ
ル茶店酒店ヲ
店屋物カ
同ニ
○楯子ハ格子ヲ書ス組
楯子狐楯子釣楯子壹楯
子カラリ禁裏ヘハ
ニハ狐楯ヲ
○倉ハ五穀ヲ入ル
ヲ
ヲ藏トシ書物ヲ入ヲ
庫トシ上庫ハ
ヲ
○齋ハ潔ク心ヲ洗ヒ齋
リ学ス所ヲ
カヲ学ス所ヲ学文ヲトリ
ヘハ我学ス所ノヲ
カ
○廳ハ堂下ノ
の四邊ノ重檐ナリ
○窓ハ
ヒラリ外ヲ
聽ヲカヲノ
に同ニ紗窓

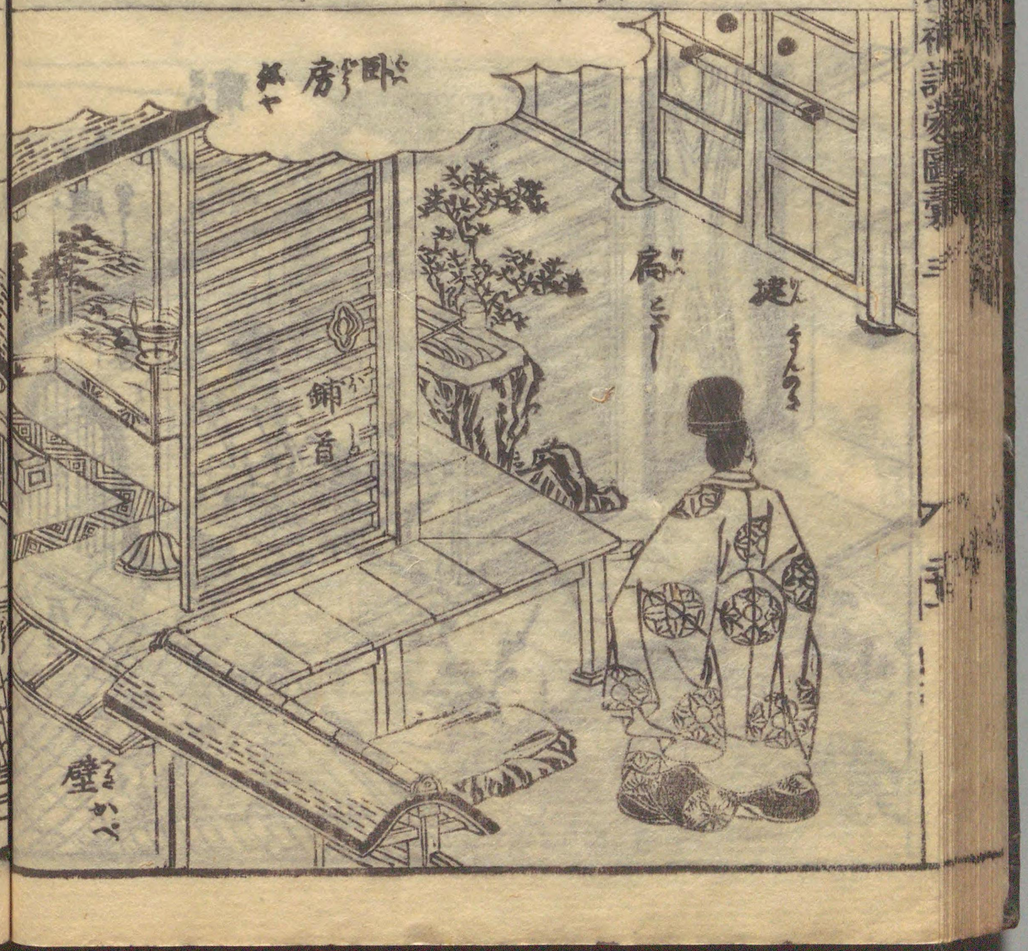


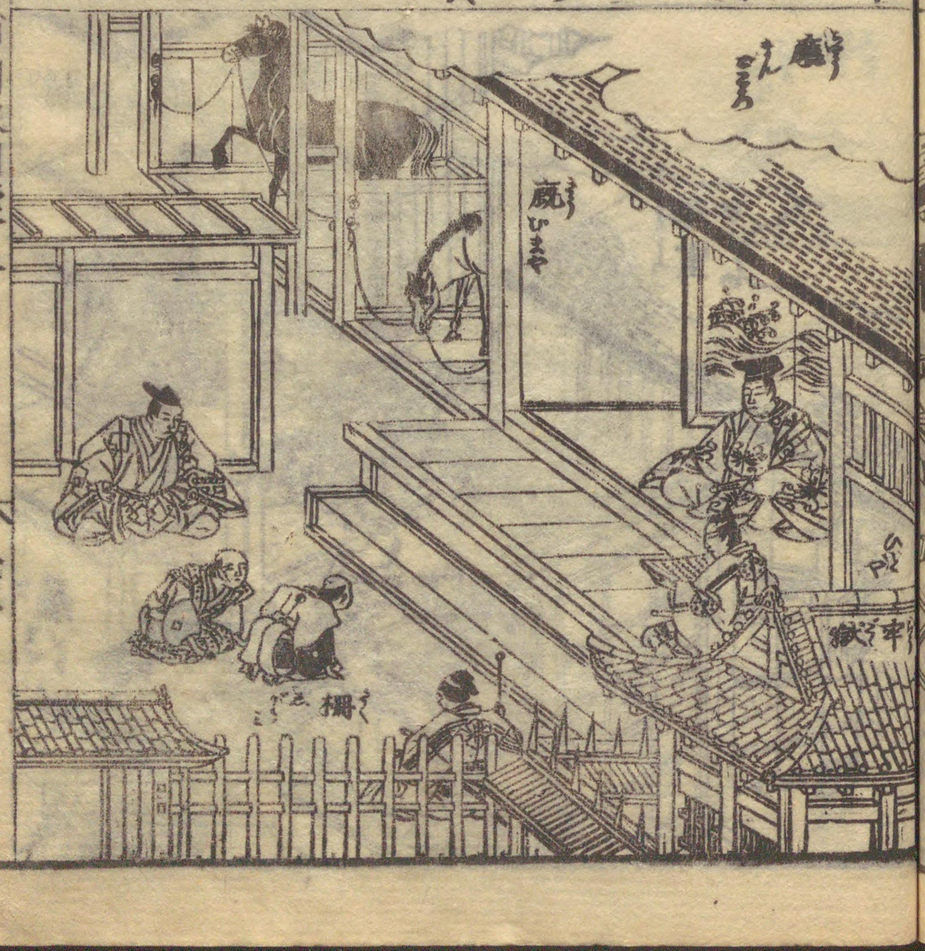


国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○戸は一枚ごとの門と戸
こうさつ門と戸とのわかち
こうさつ民家ともに
作りて多くは編戸といふ
○扉は唐戸の見吾とうさつ
くり形一枚ごとに華と
こうさつ二枚扉とうさつ魏の文帝
扉とうさつ鶯舞とうさつ
ふたのてうさつ牧羊
鶯舞一扉とうさつ
○壁股は持風の下にあり壁
の腰の低くこびりて壁の水中に
低りのみこびたるごとくなる
をいふ鴨居とうさつも同意や
○卧房は寝室とうさつ閨
房とうさつ公子の御寝所と
定めり

○建は限門本とり今つくり
んの本とり扉門並に同
○扃は外より閉る関なり
門扉のうちの鍵鈕とり関
戸の本とりうんの本は鎖
○鋪首は今按とるふ門にあ
る環障子などのものて鍵とり
鈕いつかとり
○壁は城のごとく壘とうさつ
と粉壁とうさつ書壁板壁なと
のごと室の扉敷とり
○廐は政とさくとあり按非
遷使のかの本とり公子訪叙
とるうこのごとくなる馬屋いつとり
并同
○廐は馬舎とり猿の異名と
馬又とうさつくり廐と猿





国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○牢獄ハ罪人ヲ囚ルル所ナリ

○圊ハ婦人ノ移ルカタノ東坡ノ詩ヨリ圊中唯獨有ト仏ヲ

○浴室ハ水浴シテ身ヲ洗フ所ナリ俗ニ湯殿ト云

○籬ハ竹ヲ編テ作ルモノ

陶淵明カ詩ニ採菊東籬下悠然對南山

○樞ハ戸ヲ明ケ閉ノ軸ナリ

○驛ハ道中ノ所々ニ駄馬ヲ置テ人馬ヲ継送ル所ナリ

○護摩堂ハ護摩ノ梵語ニテ焚焼ト翻譯ス

○臺ハ四方ニシテ高キモノ

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

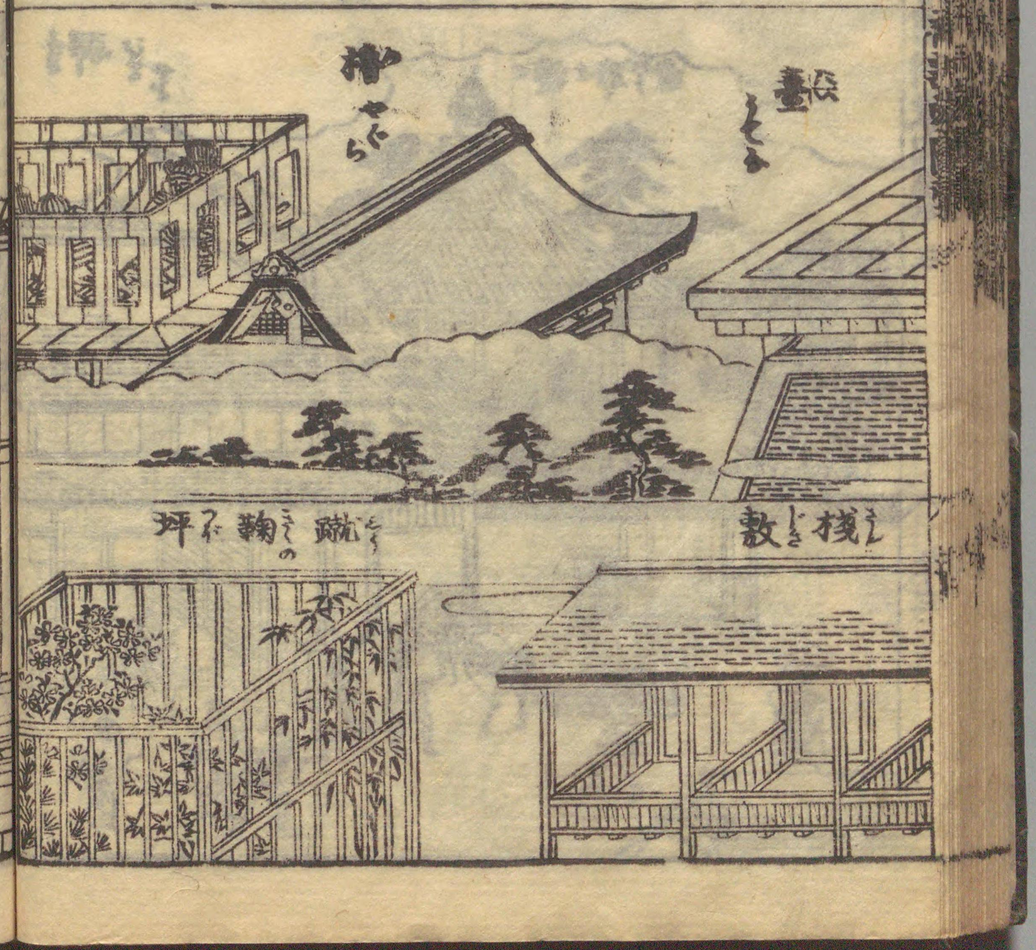
ガラス使用

臺といふ。臺上に屋と架をるを臺門といふ。樓臺　舞臺　歌臺　うてな

○櫓やぐら　城上の望樓なり。敵間なわりく敵の多少をうかゞひのぞき弓鉄炮をいつでも放つ爲の戰櫓なり。

○棧敷　見物の棚なり。棧敷ともいふ。

○蹴鞠坪　四本のそゝ四隅に松竹櫻楓をうゑかり鞠いること一里むかうにてするなり。



○輪藏　一切經と入置藏なり。轉ずるにつれてくるくるとまわるゆへ輪藏ともいふ。經藏ともいふ。一度轉藏をまわすと一切經を一度轉讀するの道理なり。

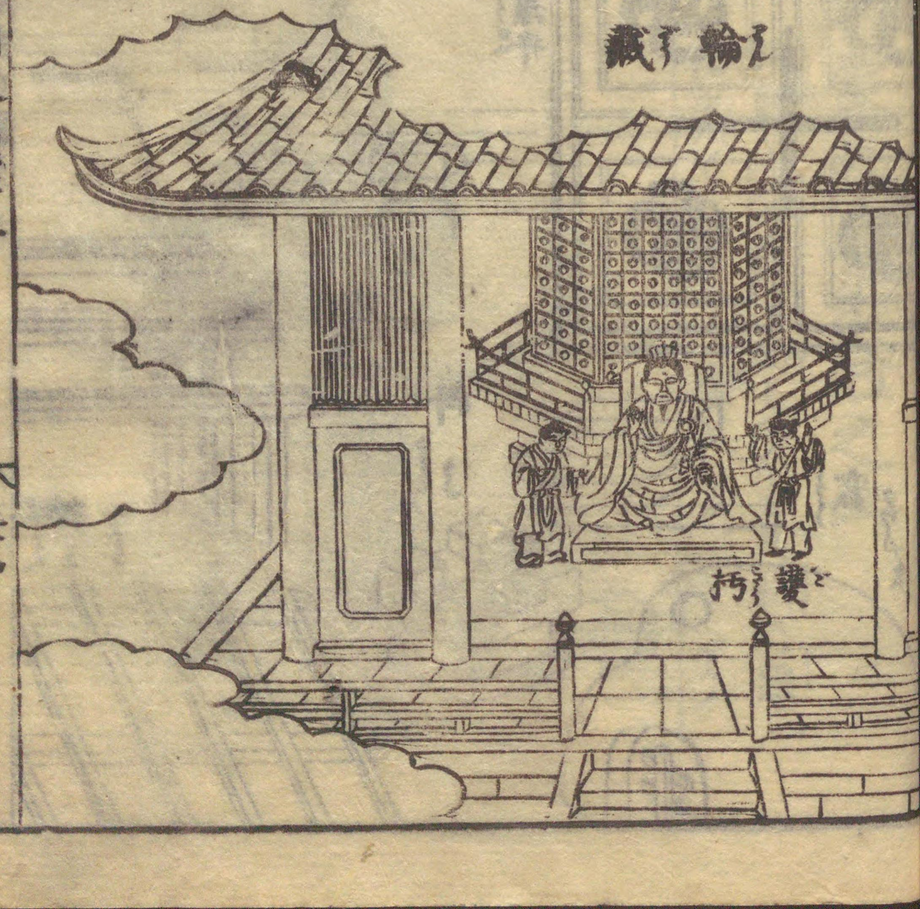
○讃柝　今の擬宝珠なり。

○柝　高櫪なり。

○柝　脊本と俗ふ書雲ともかり紙をもつて雲脊本ともいふ。曲柝　拍子木ともいふ。

○柝　柱の上の四角なる木なり。方柝　拱柝　折柝ともいふ。

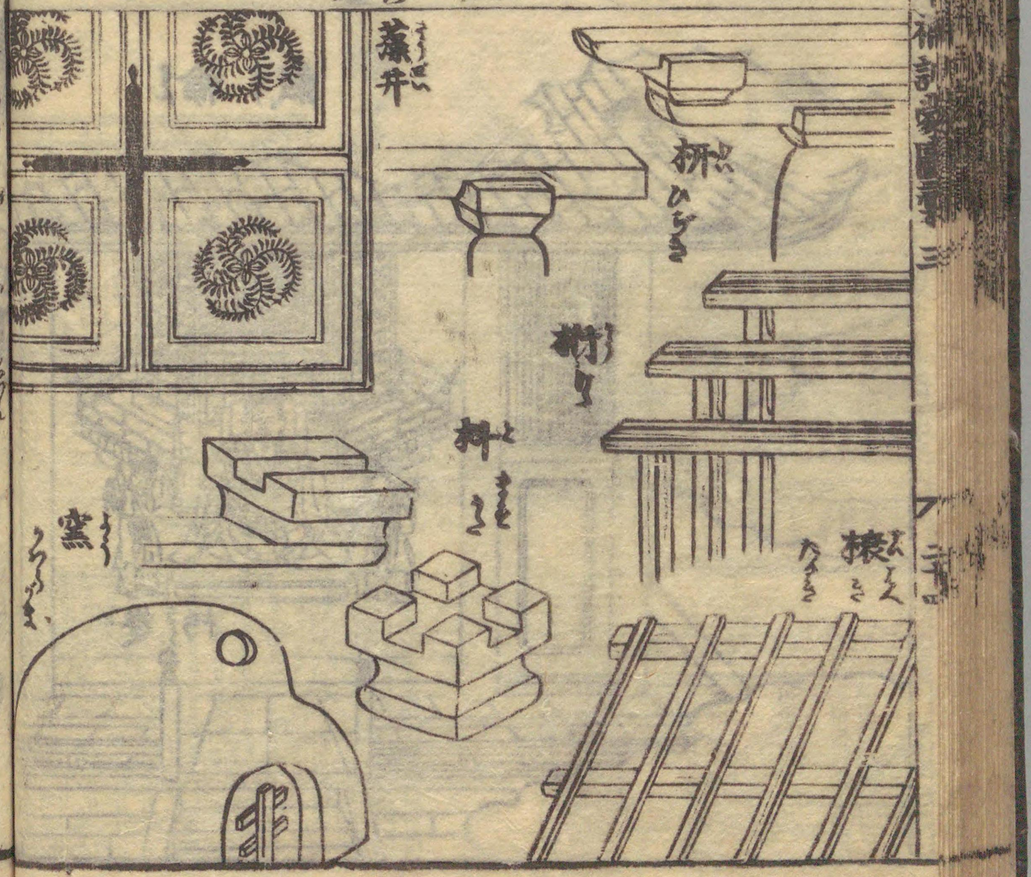
○折　屋の檐木かうし足なり。



国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

頭巾 ずきん
又衣類ともの〻名 また いるい
鶉衣 鳴衣 折と杜子美の詩に
にもあり

○椽 たるき 椽かく ろこ一泰の
世ふい椽と周の世に椽と
いへり 齊の世にも椽と
○藻井は天井なり 藻を多く
にちりばめ 藻井と云ひ
井とのみ云ふ又そらどころ
かり天井と書も此意なり
みな水の徳をとる
○窯 かま 瓦竈かりかまとよむ
かるに窯同おの〳〵ちがひ
あり 入來 いりき 入來 いりき
藁 わら 藁 わら



頭書増補訓蒙圖彙巻之四

人物

此部ふい士農工商をのゝ異朝乃國俗をべて一さいの人類をあつめしるせり

公 こう

○公 こう 三公なり
太政大臣 だじょうだいじん 左大臣 さだいじん
右大臣 うだいじん と三公とす
内大臣 ないだいじん
唐名 からめい 大傅 たいふ 大師 たいし
保 ほ とも〳〵補圖 ほと云ふ
束帯 そくたい 圖あり 束帯ふい帯 おび 劍 けん あり 是
公卿 くげ ともに式禮乃服 ふく あり くつも 靴 くつ
ふくそうあり

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○卿 いにしへ公卿かなと
大納言中納言三位
位ハスヘて公卿と云
又月卿雲客ともいへり
又ハ殿上人とも
圖をうつす所ハ雲
のごとくあり是皆
の服ゆたかに裾あく
下ハこし貫かなる
束帯ハさしぬきあり
裲襠東の色ハ位以
上ハ黒五位ハ赤六
位ハ縹色あり

○士 いにしへハ
学文
位ありて
ます〳〵
文官とも
いへり
剱と
帯ハ甲冑と
着ハ武士
と云これ
武官と称ず
○百民 いにしへ
士農工
商人なり
これを四民と
いへり

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○女房ども
嫉妬ぞうと
おこりひ
とそこに婦
ちうう父婦
ざいく婦してる
父母うんぐ
おこいく
○藥ハ堀堀
クーひく同
ろうめりうぐ
總藥
早藥

○嬰ゐん始てひまる
うん嬰児ろの人腸の
ちて嬰ろいてこと
嬰ゐろうくて乳養
ろ故小嬰ろいろを
嬰と云男て兒と云
○童い男十五以下を
童子ろの人童い獨
ゐり言いのまご室家
わぐるゐう鬢子
總角これ童子の
事ゆる
○翁い長老の称也
ス人の父を称ぐく
翁ろう人の父同

翁
嬰
童

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○兵 武士の惣名なり 今甲冑を着て弓矢をとる武士を兵士と云

○兵 同前 頭にうる者也 将と云ひ従者と云ひ軍士と云ひ軍勝ち士卒の数名なり

○農 鷹山民字 わろき農と名づく 百穀を植る事仕付をよろこぶ物と 農人とのみ神農五穀を植る事をおしへ 農と名づけしともいへり

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

百工（ひゃっこう）

ろくろくの細工人（さいくにん）の惣名（そうみょう）なり

木工（もくこう）は大工（だいく）なり

漆工（しっこう）

塗師（ぬし）

補 其外指物（さしもの）

指布（さしぬの）織師（おりし）

金物師（かなものし）

とぐて工（こう）といふ是（これ）も職人（しょくにん）なり

工（たくみ）

賈（こ）

呉服物太物類

現銀掛け値なし

高（たか）

補 高（たか）いひさく人（にん）

あきびと 賈（こ）

居（おろ）し賈（こ）

賈（こ）といのりいさて

うるゝ高（たか）

高（たか）と書（かき）べし

高（たか）とりくい

あやまりなり

高賈通用（たかこつうよう）を補（おぎな）ふわさ

人（ひと）の事（こと）

駄（だ）とりくい

賣（うる）事（こと）なり

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○醫師ハ病ヲ治ヲコフ酒紙ヲ
ろく藥ヲ製ヲコフ酒ノマヽヲろく画ノまヽ
記書ト有和訓
いろ〳〵ノ和氣舟氣ヲ引キ〳〵居家
ヲり悩ムヲ
○トいヘト盛ナり
トノ赴ヲり来
者ノ心ヲ赴ヲり
急ヲ施てう
うくヘトヲう
ス著ヲとりそ
う〳〵

醫
くすし

○膳夫ハ腹部
ともつくり
今〳〵
料理人なり
庖丁とうス人
紙半ヲ
解事ヲ
今ヲノ名ヲ
ろく
みねの名ヲ
ス膳夫ノ名

膳夫
かしわ

庖丁人
とう
〳〵
う

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○畫工ハ繪師(ゑし)ノ事(こと)ナリ唐(もろこし)ノ名(な)画(ぐわ)アマタアリテソノ
ウツクシキヲミルニツケテモ
アハレ日本(にほん)ニソノ
ムカシノ巨勢(こせ)ノ金岡(かなをか)
古法眼元信(こほふげんもとのぶ)ノ
雲舟(うんしう)カトビトビ
ノ名画(めいぐわ)アリ中
古(ちうこ)ノ永徳(えいとく)探幽(たんいう)
ナルモノカアラマホシ
キコトドモナリ
サレバ
墨(すみ)ト土佐家(とさけ)ノ
禁裏(きんり)ノ御絵師(おえし)
ナリ

○祝(いはひ)ノ衆(しう)ニ贄(にへ)
詞(ことば)トナルコトヨル
者(もの)アリ祈禱(きとう)ノ
祈(いの)ルソノ
コトバヲ祝詞(のりと)
カリテ祈誡(きかい)
コトモアリ
祈冥(きめい)ト
○巫(ミこ)ハ女(をんな)ノ祈(いの)ル
ツルヨリノ起(おこり)
巫(ミこ)ノ祝(いはひ)ヲヨク
ヨロコバシムル
ヨリ
ソノ
ニ祈(いの)ル
ナリ

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○僧の浮圖乃殺にちごの去なるを沙彌と號く
又僧正僧都上人和尚長老等
僧官ある園師
大師号あり
○尼の女僧なて
比丘尼ある佛の
四部の衆の
尼姑
尼寺
尼家門ふるて
僧官異なり

○鍛ハ磨ある
推錬なる
金鉄治る
ゆく鉄と
鍛のある
鍛冶といへ
鍛治とも
似きる事
にむかしより
いやほり
きこえて
鍛治というなる
ことなり

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○陶家ハ土ヲ以テ茶碗鉢皿ナド𤭖ツクリ𤭖ノ事ヲ陶冶ト云ヒ兎工ハ兎ニ角ニクヽシキ舞ヲ舞ヒ阿嬢ハ女ノ名ヲ云ヒ𤭖ヲ焼ク火ヲ吹ク事ヲ鞴ト云ヒ冶ハ鋳匠ト云ヒ鍋釜火鉢其外金ヲ以テ物ヲ作ルヲ冶ノ業ト云ヒ唐ノ虫ハ𤭖ノ事ナリ

陶家
𤭖ノツクリ

冶ノ業

○鬼ハ人死シテ肉骨空ク朽チ魂ノ氷ノ如ク寒キ夜ニ現ハレ出テ人ヲ悩ス事ヲ云ヒ仙ハ其ノ反対ニテ此ノ世ニ長ク住ム人ヲ云フ

鬼

仙

○佛は西方の聖人なり本は凡人にて佛の人を導きよしと凡人にかはりこゝろざしかたき事なり

菩薩

佛

○樂は八音とかゝりて樂人とも樂官とも樂をつかさどる人を伶人といふ樂式管絃をもつて日本の樂と神樂とものゝかなでる男などいふ事なり

樂官

伶人

俳優（わざおぎ）

○俳優（わざおぎ）の雑戯（ざつぎ）

ゆうとめのこ

ろうまいかんじ

狂言師（きやうげんし）の

まうひ

猿楽（さるがく）の

謡（うたひ）

紫宝（しほう）の

みこと

○深西（しんさい）の

縛屋（ばくや）

とのこのかり

○蠶婦（さんふ）

ひくくくくく

そろそろ

親（おや）に

蠶（かひこ）

蠶婦（さんふ）

深西（しんさい）

そめとの

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

機女（きぢょ）　そそくり

○機女（きぢょ）いろ〳〵（もろ〳〵）の呉服（くれはとり）綾錦（あやにしき）

そそくり二人（ふたり）の女（おんな）そそくりく

そそくりゐる

そそくり

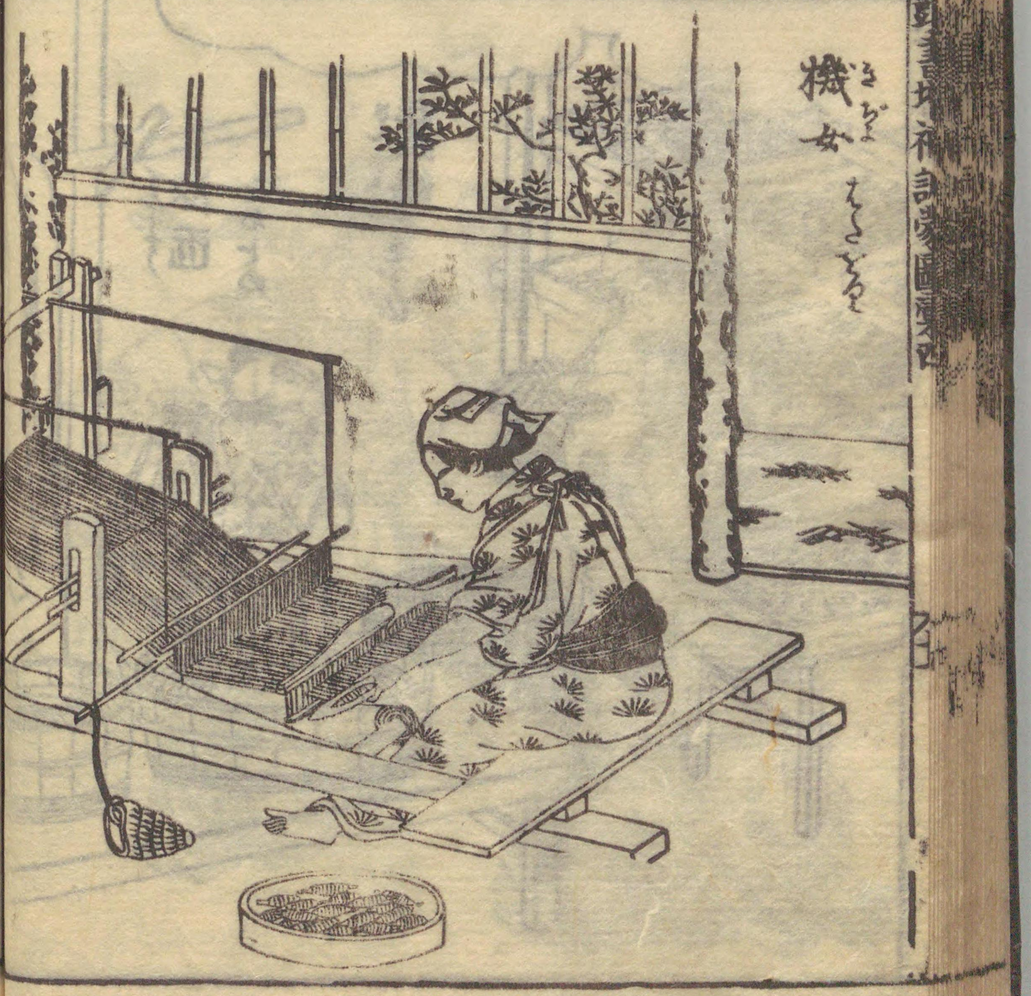
しとりや上機（じやうはた）

多（おほ）の綾（あや）おと

そそくり機（はた）

布木綿（ぬのもめん）

そそくりかな



○矢人（やうど）の矢（や）把（わ）り矢（や）の唐（から）ゆひの年妻（としづま）

いつ〳〵（いつも）矢（や）を把（わ）りつゝ居（ゐ）る

時（とき）もあり矢（や）を把（わ）る

和訓（わくん）神代（かみよ）巻（まき）

○弓人（ゆみうど）弓（ゆみ）を造（つく）る師（し）也（なり）

弓人（ゆみうど）の竈氏（かまどうぢ）

二黄帝（こうてい）　堯舜（げうしゆん）

始（はじめ）て二黄帝（こうてい）の時（とき）

揮（き）と云（いふ）人（ひと）始（はじめ）て

日本紀（にほんぎ）神代（かみよ）巻（まき）

○西人（にしびと）の鐙（あぶみ）なく止（ただ）

鐙（あぶみ）の革（かは）を踏（ふん）て乗（のる）

二黄帝（こうてい）の時（とき）女

乗（のる）　神代（かみよ）巻（まき）

日本（にほん）神代（かみよ）巻（まき）

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○硯（すゞり）　石（いし）の黒（くろ）く潤（うるほ）ひて滑（なめら）かに墨（すみ）の
よく遊（あそ）ぶを硯（すゞり）と墨池（すみいけ）とを
○銀匙（ぎんさじ）　水（みづ）を硯（すゞり）に
とり分（わ）くるの匙（さじ）
○王人（おうじん）　玉（たま）を琢磨（たくま）
するものをいふ
○珮（おび）　伊達（だて）諸侯（しよこう）
の帯（おび）るところの
津（つ）の丸（まる）
硯（すゞり）
銀匙（ぎんさじ）
王人（おうじん）
硯工（すゞりし）

①烏帽子折（えぼしおり）　京（きやう）
都（と）室町（むろまち）三条（さんでう）に
あり○烏帽子（えぼし）の立（たち）
烏帽子（えぼし）をもいる程（ほど）
の者（もの）一人（ひとり）脇（わき）
に梨子打（なしうち）烏帽子（えぼし）
右折（みぎおり）小結（こむすび）荒目
なるあり
○褶匠（しうしやう）　今（いま）
表具師（ひやうぐし）の
事（こと）なり
表補（ひやうほ）
表褙（ひやうばい）
紙（かみ）も同（おなじ）
烏帽子折（えぼしおり）
褶匠（しうしやう）

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○傘工の雨傘日傘挑灯どもをさのくり人あり

○皮面の今ハ皮屋カなどあり

○針磨の宗岬小路の名物なり今ハ三条寺町の名に多くあり

すやとの者名物よろと針をとぐせ貴ゑんさうの説

皮面

針磨

傘工

○牙婆の今ハあひかり衣類をとりもつくうとんどうりの方ん

○筆工の筆結筆いりろうにて数帖とりつゞりよめり

○薦僧の梵論ともいふ梵論字漢字ともいふ暮露とも書かり是ハところの諸国を廻りをうる

筆工

薦僧

牙婆

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○石工の石を切て石垣石燈籠の類を摺石幣帛ともするものの事なり石ゆく野ゆく人ゞも〳〵笑ひ草と萱とりつく事をいやうふかゝらんをそ

○坊者の今いふたゞぼうず坊人ともも泥工とも泥面ともいふなり坊ふつゞ竈のかうち事をそるものもはと

坊者

石工

相撲使

○相撲の乃見

宿祢と

搬速と

つよりの二人

取組

角抵と云

膂力を

争ふさま

相撲使

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○扇(あふぎ)　ふくい舞(まい)とつゝみどんどんとうちめのよし
日本(にほん)にくい　神功皇后(じんぐうくわうごう)のうたへ蝙蝠(かうもり)の羽(はね)
てうちくつがへりてめいとうちうらにくいとうたへり
嘗(なめ)と賞(ほめ)を
○漆匙(うるしさじ)　ざくそうのとうふ今(いま)の
塗師(ぬし)とうふ

○像儒(ぞうじゅ)　きんとうの人今(いま)うすかしとうり短(みじか)い人(ひと)ーとう
○駝背(せむし)　医書(いしょ)みたくい亀背(きはい)とうふ背(せ)のちゝまるとて
と嘉驩(かくわん)とうふ駝(だ)るにいてうるゆへせむしの人(ひと)を駝背(だはい)とうふ也
○兎唇(みつくち)　鬼鉄(きてつ)ともうふ兎唇(みつくち)ー赤子(あかご)のときよりの
口中(こうちう)ふかゝぬ上(うへ)くちびるまでわれて成人(せいじん)してもいえぬものあり

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○蜑人の海中
にくゞる體
昆布わかめ
あらびかぜ
うめのかり
海人くさも言
あまの業なれ
ども姫ごぜ女
もわきて
いとおしき海
あまつをとめ
かとぞおもふ
ほゝゑまれ
なるべき

蜑人

○釣叟
そこをおもふ
とつゝみもせぬ
老の涙か
あらびかぜ
日中ふし作代
まをおりし
うめのかり

○樵夫
ちかき山の薪を
ふかりのこり
ふゆ木つくり
ゐへ木つくり
村人をも
いきぐるひのうめ
かりこゑ

釣叟

樵夫

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○猟師の弓
鉄砲でふく
射殺すこと
もの多し
唐義氏の世
天下に戦多く
弓盛んなり
今の人
鳥をとりしの
ごとし
その猟より
もろこし
海河にて魚
猟す

猟師

○聾者は目なし
耳の多き前
目盲人
口輪語を見
者と聾者と
人髪毫法師と
いひてむかし
天竺平安
とうりし今は衆
三種ありと
按按句當四谷
かくて怪落
ろを

聾者

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

◎牧童ハ廣野
ニ牧ス牛馬
ヲ牧ス
童カリ牧童
遥指杏花
村ト詩フ
モ俗ニハ牛飼
ト云ヒ又ハ
笛吹ト
ろく牧笛ト
又詩フ牧童寒
笛倚牛吹ト
いろいろ名アリ

牧童
みくさ

◎鏡造鏡ト
ハ人ノ神代ノ
天ノ糠戸ト云フ
神天照大神
ノ御ス
ろくそ始テ
鏡ノ姿善悪
とうろくもの
曲直ノ
ごとし

鏡造

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○婬婦い倡優と
て女の樂と妻とする
りのより婬へ婬する
なるを倡と書へし
又倡妓ともいへども
是ひとりの事にあらず
今の俗てかるや妓
て兩方ともに中比白
拍子よりこのかた
今ての遊女茶屋
かゝへの女らうなん
婬婦と倡婦ともに
なるへし
うるさいやつ

又糠エともいふ
蒋給阿と
いふも此類の
ものかを

○渉人い渡
守かう
大河小川を
舟にてくむ
ものの事
大河の中程
まてこぎいたり
船賃とりて
たるかう

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○駕輿丁の
駕輿うたの
事ありて
浦尻源吾
藤二と流連
とゐつゞきて
大ゐなる男
ありくに男
も流連ゐて
○浪人とも不順に
こゝもとにて流
浪する
人の事人と
まうけるまり
なり

駕輿丁

浪人

○偃傴師の
人形まじ
の事ありて
くぐつ師と
も渉路窮
この人形う
あま事一回に
こくくりしは
近年絶てこの
ものふしぎ
回楽法師と
いふ人のあり
うつくしの
名をとる
ほり

偃傴師

頭書増補訓蒙図彙 巻之四

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○車借（くるまかし）の車つひの事（こと）ありき狐（きつね）狗（いぬ）水（みづ）ふわくばし庭訓（ていきん）にてそうう今（いま）さ其外（そのほか）車（くるま）にのること天子（てんし）の車つひて御者（ぎょしゃ）とも徒御（としゃ）とも舎人（とねり）くるまの

○問丸（といまる）の今の人問屋（とひや）の事ありき書（かき）の初端（しょたん）伝毎日（でんまいにち）問（とい）ありとる宿（やど）ありくく問屋（とんや）云又道中（どうちう）にて問屋（とんや）ことくくいる奥（おく）と

○馬借（うまかし）の馬奴（やつこ）ハ馬口労（くちらう）ともいふ大津（おほつ）坂本（さかもと）の馬借と庭訓（ていきん）にあり今（いま）いるさ

とる借（かり）といふハ人（ひと）をとるくち労（らう）といふ人（ひと）の別（わか）ふありて牛（うし）るの荷（に）ハ賃（ちん）ハ賈（あきな）ひとをとる者（もの）あり

○伯楽（はくらく）ハ馬（うま）の病（やまひ）をとりもつ人（ひと）伯楽（はくらく）といふひゝしい京（きやう）室町（むろまち）まけるよや室町の伯楽と庭訓（ていきん）ニ

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○土器い京
西山嵯峨
又北山畑枝
引い深草
よるほそう虫
ぜう庭訓
にも蛬哉
かつこけとあり
○大系の黒木ずり
京北山大系
の女黒木といふ
きそ系に出て
わさのくまいひ
ひ〳〵平れ惟盛
の妻阿波の内侍
平家七ひて後

土器師

大原黒木女

屠者

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○中國ハ中華ともいひ漢ともいひ唐ともいふ
ほゞ明ともいひ韃靼ともいふ今ハ大清ともいふ
○朝鮮國ハ中山國ともいつく日本にちかゝり
い祝ともいひ狛ともいふ百濟高麗ともいひ
今ハ一國ともある日本ハ
ちかくいりて
○琉球國ハ中山國ともいつく日本にちかゝり
い祝ともいひ狛ともいふ百濟高麗ともいひ
今ハ一國ともある日本ハ
ちかくいりて
とりて帽子ともいひ雜

○天竺ハ仏生ずる
ところの大國の大熱國
なるを國内ハ聖水あ
つくよく風濤とや
む商人琉璃の壺仏
のりをくみ水をとりくる
○蒙古ハ韃靼の一種
あらむ〳〵日本へ攻来り
神風ハ吹破らるゝ
かり是を蒙古國
襲ともいふあり
○肅慎ハ女直とも女
真ともいふ國人ハ
くちそで道をゆく事
鳥のそぶくごとくに
てあるゆへと名づく

国立国会図書館　頭書增補訓蒙図彙 21巻　わ031-35
ガラス使用

○占城ちやんせん
とう人安南に遊き國なり土太家多く一ツ目の夷也公事補詔新の者ありて理非分明かたべ鮮こゝあふ科わるりの人鮮こゝまた公食とそり
○安南國ハ交趾
そも東京ともゝ云男子ハ盗とこのむ女ハ淫をこのむ女をめとるとハ媒をもつてうるひ合國に内柱あり一ツ他國

占城
ちやんせん

にんぐと云國の内柱を上品とす
○暹羅ハ國ハ海濱あり一ツ男ハいとけなきより湯公さく甘波非ともいふ此國の深をおやく日干にもちひろとつもり
○東番ハたいさん補もゝ人たいさん國ともゝ人安南にちかき多ひとゝ日もり補むり一ツ國性耶この國公さるとうなをーもり今唐に後へ

安南
あんなん

暹羅
しやむろ

東番
とうばん

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○南蠻ハ阿媽港人ノ事ナリ阿蘭陀(補)ハ類カラモ人ニテ南ノ嶋國トゝみんだんとゝいふ其品類多クアリテ人物種々ニコゝろもち西ノ方ビセ公西戎とゝいふ是もその數多くあるを

○東夷ハ蝦夷人ノ事ナリ人物勇猛にたて常ハ山野ニいて獸ヲ射とりヌハ海中の魚類ととりて食とそ

南蠻 みなみのえびすのごとし

東夷 ひがしのえびすのごとし

呂宋 るそん

懲じて中國ノ東ニある島國ナリ

○東夷とゝいひ西ノ方ニ當ル嶋國を西戎とゝひ南にある紅南蠻とゝひ北ニある紅小狄とゝいふ

○呂宋ハるそんとて中國ニちかき所ノ國ナリよくゝ聞ニ絹とあるをつゞそ

○長脚ハ足ノ長キ國ナリよくゝ聞ニる事獸のごとし

長脚 あしながのえびすのごとし

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

○長臂國ハ東海の
中ニあり
國人ことごとく
しろき布衣をきる
長一丈三尺八寸
ニ臂なき
くるぶしもあと
無臂國とハ
ニ臂ひとし
あるほも
あり一臂國
とハ
ニ
あり

長臂國

てながおき

○崑崙ハ西南
の海中ニ鳴條國也
その人物色くろ
きこと墨漆ねり
ごとし海底にて
自由ニ火をもやす
よくそこの水のわく
ことを得ること
よくく異國の渡
海の船おほくハ
此崑崙をおそ
ごりとの人世ず色
黒きものと崑崙
坊とハいへり

崑崙

くろがう

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

わ031
35
1

20135

○小人國此國東方にあり身の長九寸ばかり二人五寸ともみゆ此國に鶴多くかさる鳥おりて小人をとりくらふことをおそれてひとりもこの國にはゐたらゆくことをえず

○長人國へゆく時の人難風に船を吹かゞされてある島にいたる人の長一丈余ありて水をわたりゆく

国立図書館
24. 2. 29
寄贈

国立国会図書館　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用

国立国会図書館　　頭書増補訓蒙図彙 21巻　わ031-35

ガラス使用